

科目名：「統計学」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 「 」

目的：統計学の基礎知識を学び、集団の状態を数量的に把握し分析することが、科学的な思考の基本となることを理解する。さらに、情報処理に必要なパーソナルコンピュータの基本知識と技術を学ぶ。

- 目標：1. 人々の健康の指標となる保健領域の統計的な見方が理解できる。
 2. 収集したデータ（あるいは作成したデータ）の特徴を抽出できる。
 3. 統計データから母数を推計できる。
 4. 推計した母数の値の信頼精度を判断する。
 5. 情報科学の基礎的理論や、その技術的側面であるコンピューターに関する基礎的知識が分かり、看護情報の処理、判断に活用できる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 統計学入門	1) 統計学とは 2) 医学・看護学・健康科学の統計学 3) 統計学におけるものの考え方 4) 統計学学習の意義 5) 健康指標	3	保健統計とは何かを説明し、自分達でデータを収集し、その特徴を読み取らせる。その後、その特徴を上手く表現するための統計的記述法を解説する。身近なデータを収集し、	統計に慣れ、親しみが持てるように、実習形式を取り入れる。
2. 記述統計学	1) 度数分布表などを利用したデータの取りまとめ方	3	度数分布表やヒストグラムに描き、その特徴を見やすくする工夫を考えさせる。集計された表から、母集団の特徴について考えさせる。	同上
3. 基本統計量	1) 平均、分散などの基本的な統計量の解説と使用上の注意点	3		
4. 統計的推定	1) 収集した統計データから、代表的な母数（母平均や母分散等）を推計することを学習	3	テキストの例題、学会誌からの事例を用いて母数の推計について考察させる。	理論的な説明に偏り過ぎないように、保健統計の事例を紹介しながら進める。
5. 統計的検定	1) 推計した母数の値が、統計的に意味がある値となっているのかテストする手法を学習	2	検定の意味を理解させる事を目標とする。推定の場合と同様、例題や事例を用いて学習を進める。	同上

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
6. パーソナル コンピュータ の概要	1) Windows基本操作 2) Microsoft Wordによる文章 入力と仮名漢字変換	3	演習	一人1台のパソコンを使用し、 演習を進める。
7. Word2010の 利用	1) 書式設定 文章の印刷 2) 表の作成と装飾 3) 図の導入とレイアウト	3	演習	
8. Word Art	1) 図形の挿入 2) 挿絵の貼りこみ 3) 表計算の基本操作	3	演習	
9. 表計算の応 用と電子メー ル	1) 計算式の組み込み 2) セルの表現 (絶対参照、相対参照) 3) データの順序と並べ替え 4) レポート作成	4	演習	
10. プレゼンテ ーションソフ ト	1) スライドの作成 2) 画像や表の挿入 3) マスターのデザイン 4) 特殊効果 5) プレゼンテーション技術	3	演習	
教科書	系統看護学講座 統計学 (医学書院) 30時間でマスターoffice2013 配布資料			
副読本	随時資料を配布する			
評価方法	(100点)：筆記試験 (70点) 課題 (15点) 授業への取り組み (15点) (出席での評価)			
進 度	1年次前期 (4月～8月)			

科目名：「社会学」 1 単位（30時間）

講師名：「 」

目的：人間の生活基盤である社会の構造や、その中における人間行動、社会の中での人間の役割について学ぶことにより、社会看護問題を考える。

- 目標：1. 社会学の概要について理解する。
2. 看護職と社会との関係について社会学の視点から考える。
3. 現代社会のさまざまな問題について社会学の視点から考察する力を身につける。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
・社会 ・高齢社会 ・少子社会 ・人口減少社会 ・多死社会 ・福祉社会 ・無縁社会 ・都市社会	・オリエンテーション ・超高齢社会 ・社会保障 ・家族 ・地域 ・介護保険 ・少子化 ・介護予防 ・終の棲処 ・孤立死 ・尊厳死 ・在宅介護 ・施設介護 ・高齢者虐待 ・児童虐待 ・年金 ・生活保護 ・貧困 ・成年後見 ・地方自治 ・都市経営 ・医療 ・社会福祉の原論	30	講義	学生の積極的な発言を求める。 社会学の視点から事象を考察する。
教科書				
副読本	系統看護学講座 基礎 社会学 (医学書院)			
評価方法	筆記試験・レポート			
進 度	1 年次前期（4 月～9 月）			

科目名：「スポーツ科学」 1単位（15時間）

講師名：「 」

目的：運動が心身の健康に与える効果を理解し、効果的な運動処方を理解する。
生涯スポーツの意義を理解し、健康的な生活をするための基礎を構築する。

目標：1. 運動（身体活動）による身体諸機能に与える効果を学ぶ。
2. 日常生活での身体活動を用いた体力づくり、健康づくりの手段について、実践を通して学ぶ。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 生涯スポーツの必要性	1) 授業方法のオリエンテーション 2) 生涯スポーツの意義と必要性	2	講義	プロジェクターで資料提示
2. 運動が心身の健康に与える効果	1) 体力の発育、発達の特性と運動処方 2) 心の健康と運動	2	講義	プロジェクターで資料提示
3. 実技	1) ストレッチの考え方と実践 2) 日常生活の中でのトレーニングの方法と実践 3) 自分にあった運動プログラムの作成 4) 筋力測定と筋力トレーニングの実践 5) 有酸素運動の実践	9	実技 グループ学習	体育館へ移動する 運動に適した服装に着替える 運動靴（体育館シューズ）を履く
4. 健康と生活	1) 健康で幸せな生活の構築について	2	講義	プロジェクターで資料提示
教科書	なし			
副読本	なし			
評価方法	レポート			
進 度	1年次 前期（4月～6月）			

科目名：「人間関係論」 1単位 (30時間)

講師名：「 」

目的：人間の理解と、人間関係の意義について学び、人と人との関わりの中で、自己理解ができる。
人間関係を円滑に・促進させるための様々な知識・スキルを身につけることができる。

- 目標：1. 価値観や自己感情を認知することで自己理解を深める。
2. 他者について理解する態度やスキルを獲得する。
3. 人間関係を促進する知識や方法について学ぶ。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
エンカウンター	人間関係の構築と対人関係促進のためのスキル獲得	16	構成的エンカウンター・グループによる体験型の授業	宿泊形式
人間関係とは	人間関係論の概要と歴史、対人関係と集団・社会	2	スライドを使用した講義	講義全体の理解と把握
コミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーション	2	コミュニケーション実践と講義	人間関係の基礎の理解
自己意識と社会	自己理解と社会における自己概念の形成	2	フォーカシングによる自己理解体験と講義	自己へ向き合う重要性
対人認知と葛藤	印象形成、ステレオタイプなどの社会的認知、帰属理論	2	研究例を紹介し理論や実例を挙げた講義	他者認知の特徴を理解
親和欲求と動機づけ	社会的動機と自己実現傾向、人間関係への動機づけ	2	コメントシートを使用した応答と板書による講義	動機の過程を理解
他者・集団の影響	集団規範と凝集性、同調	2	ビデオの視聴と講義	社会影響の把握
社会的役割	家族・友人・職場・地域等における役割と自己	2	配布資料を用いた講義	社会的自己への気づき
総括	全体のまとめ			講義全体の確認
教科書	特に指定しない。必要な資料は、適宜配布する。			
副読本	特になし。必要に応じて講義中に紹介する。			
評価方法	筆記試験（50点）、および、講義後に記入するコメントシートや授業への参加態度（50点）により評価する。			
進 度	1年次前期（4月）エンカウンター 1年次後期（3月）講義			

科目名：「教育学」 1単位（30時間）

講師名：「 」

目的：教育の原理を基礎知識として、人間形成における教育の機能を理解する。また、看護における教育的役割を学び、指導技術の基礎とする。

- 目標：1. 教育の基礎・目的・方法・内容について理解する。
 2. 人間の成長・発達について理解する。
 3. 教育と看護について理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点	
教育の意義	1) 「教育学」のテーマについて 2) 教育の意味について 3) 「引き出す」ということについて	2 2 2	講義 講義及びVTR 講義及びグループワーク	*質問は講義中、いつでも受け付ける。 *グループワークにおいては、積極的に参加すること。 *テストにおいては、すべて持ち込み可。	
教育活動の土台	1) 教育的関係について 2) 教育的雰囲気について 3) 信頼関係について 4) いじめ問題について 5) グループワークについて	2 2 2 2 2	講義及びVTR 講義及びVTR 講義及びVTR 講義 グループワーク		
家庭教育	1) 家庭教育について 2) 早期教育について 3) 少子化問題について	2 2 2	講義及びVTR 講義 講義		
人生と教育	1) ノーマライゼーションについて 2) 自己実現について 3) 教育と看護について	2 2 2	講義及びVTR 講義及びVTR 講義		
まとめ	まとめ	2	講義		
教科書	使用しない。				
副読本	講義の中で適宜紹介する。				
評価方法	最後に行う試験を90点・出席点を10点で評価する。				
進 度	1年次前期（4月～9月）				

科目名：「生活と文化」 1単位（30時間）

講師名：「 」

目的：生活経験の少ない現代の学生が、人間が社会の中で生活していることを、その文化と生活という視点から学び、対象の基本的な生活習慣を踏まえた援助の基礎とすることができる。

目標：1. 家族を客観的に見つけ、家庭生活が国内外の社会とどのように関連しているかを考えることができる。

2. 日常生活における衣食住を具体的な事例でとらえることにより、日本人の生活文化の継承を知る。

3. 対象者の生活歴や生活環境を理解する力を高め、対象者自身の力を引き出す応用力を養う。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 「生活」を考える	1) 生活経営の考え方 2) 家族構成の変化	2	講義	*適宜、資料を配布する
2. 生活時間とは	1) 生活時間の管理 2) ライフスタイルとライフコース	2	講義	*内容により、DVD等を視聴することがある
3. 長寿社会を生きる	1) 高齢社会とは 2) 高齢者の生活実態	2	講義	
4. 現代の結婚	1) 配偶者選択と伴侶性の形成 2) 夫婦関係の破綻	2	講義	
5. 日本の子ども	1) 子どもと家族の現状 2) 育児における課題	2	講義	
6. 生活と金銭管理	1) 家計と個計 2) 金銭管理の要点	2	講義	
7. ファイナンシャル・プランニング	1) 貯蓄と負債 2) 保険	2	講義	
8. カード社会の金銭管理	1) カードの種類 2) カード社会の問題点	2	講義	
9. 消費者問題	1) 消費者問題の歴史 2) 消費者相談の現状	2	講義	
10. 衣生活を考える	1) 衣生活と健康 2) 衣生活と管理	2	講義	
11. 食生活を考える	1) 健康な食生活 2) 食の現状と課題	2	講義	
12. 住生活を考える	1) 安全な住まい 2) 健康な住まいとエコライフ	2	講義	
13. 地域・コミュニティ	1) 個人と地域 2) 地域再生の実現	2	講義	
14. 世界の中の日本	1) 男性と女性を取り巻く諸問題 2) 男女共同参画社会とは	2	講義	
15. 生活文化を考える	1) 人生の四季	2	講義	
教科書	生活経営学（九州大学出版会）			
副読本	講義の中で適宜紹介する。			
評価方法	講義後に記入するフィードバックシートを含めた授業への参加態度（40点）、及び筆記試験（60点）により評価する。			
進度	1年次前期から後期（7月～10月）			

科目名：「英語」 1単位（30時間）

講師名：「 」

目的：国際化に対応しうよう利用度の多い英語の読解、日常会話能力を身につけるとともに、医学英語を学ぶ。

目標：1. 医療・医学の基本的な専門用語が理解できる。
2. 医療現場における英会話の必要性を理解し、積極的にコミュニケーションができる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 医学看護英語 2. 看護における 日常会話	1) UNIT 1 EMERGENCY DEPARTMENT／救急外来 DIALOGUE1 RECEPTION DESK／受付 DIALOGUE2 EXAMINATION／診察室 DIALOGUE3 GIVING INJECTIONS／注射を行う DIALOGUE4 EXPLANATION TO A FAMILY MEMBER／家族への説明 2) UNIT 2 MEETING THE PATIENT／患者との顔合せ DIALOGUE1 SELF-INTRODUCTION AND FIRST MEAL／自己紹介と初めての食事 DIALOGUE2 ORIENTATION TO THE WARD／入院病棟を案内する DIALOGUE3 ASKING HEIGHT, WEIGHT, AND TEMPERATURE／身長, 体重, 体温をたずねる DIALOGUE4 OBTAINING THE PATIENT'S HISTORY／患者歴をとる 3) UNIT 3 GENERAL CARE OF PATIENTS／入院患者の全般的ケア DIALOGUE1 CHECKING THE PATIENT'S CONDITION／患者の状態をチェックする DIALOGUE2 BLOOD TEST EXPLANATION／血液検査の説明 DIALOGUE3 DRAWING A BLOOD SAMPLE／採血 4) UNIT 4 OPERATION ORIENTATION／手術のためのオリエンテーション DIALOGUE1 EXPLAINING ABOUT THE OPERATION: BASIC PROCEDURES／手術についての説明：基本の手順 DIALOGUE2 EXPLAINING ABOUT THE OPERATION: ANESTHESIA／手術についての説明：麻酔	30	講義 リスニング DVD視聴 ゲーム	毎回辞書を持参すること CDレコーダーを使用してのリスニング

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	5) UNIT 5 POSTOPERATIVE CARE／術後のケア DIALOGUE1 OBSERVATION AFTER OPERATION(1)／術後観察(1) DIALOGUE2 OBSERVATION AFTER OPERATION(2)／術後観察(2) DIALOGUE3 URINARY CATHETERIZATION (1)／導尿管挿入(1) DIALOGUE4 URINARY CATHETERIZATION (2)／導尿管挿入(2) 6) UNIT 6 PATIENT DISCHARGE／退院 DIALOGUE1 INSTRUCTIONS BEFORE DISCHARGE／退院前の指導 DIALOGUE2 INSTRUCTION ON DIET／食事指導 DIALOGUE3 APPOINTMENT AS AN OUTPATIENT／外来患者としての予約 7) UNIT 7 OUTPATIENT CLINIC 1／外来1 DIALOGUE1 OUTPATIENT RECEPTION DESK／外来受付 DIALOGUE2 INTERNAL MEDICINE RECEPTION DESK(1)／内科外来受付(1) DIALOGUE3 INTERNAL MEDICINE RECEPTION DESK(2)／内科外来受付(2) 8) UNIT 8 OUTPATIENT CLINIC 2／外来2 DIALOGUE1 EXAMINATION ROOM／診察室 DIALOGUE2 SUPPLYING INFORMATION TO PATIENT(1)／患者への情報提供(1) DIALOGUE3 SUPPLYING INFORMATION TO PATIENT(2)／患者への情報提供(2)			毎回辞書を持参 すること グループワーク には積極的に参 加する
教科書	ESSENTIAL ENGLISH FOR NURSES (日総研)			
副読本				
評価方法	筆記試験 「 」 (100点)			
進 度	2年次前期 (6月～7月・9月) ・後期 (10月～12月)			

科目名：「人体の構造」 1単位（30時間）

講師名：「 」元大学教授医師

目的：人体の発生、構成について学び、人体の形態と構造を理解する。

人体の役割を学ぶことで、看護を実践するための解剖学的根拠が理解できる。

目標：1. 人体の構造について理解する。

2. 主要な器官系統の構造と役割を理解する。

3. 解剖見学で体験したことと、講義で学んだ知識を統合する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 解剖学を学ぶための基礎知識	1) 解剖学総論 2) 構造からみた人体	2	講義	
2. 栄養の消化と吸収	1) 口・咽頭・食道の構造 (1)口の構造 (2)咽頭と食道の構造 2) 腹部消化管の構造 (1)胃の構造 (2)小腸の構造 (3)大腸の構造 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造 (1)膵臓の構造 (2)肝臓・胆嚢の構造 4) 腹膜	4	講義	
3. 呼吸と血液のはたらき	1) 呼吸器の構造 (1)上気道 (2)下気道と肺	2	講義	
4. 血液の循環とその調節	1) 心臓の構造 (1)心筋 (2)刺激伝道系 (3)心臓の構造 2) 血管系 (1)動脈系と静脈系 (2)肺循環と体循環 (3)冠循環 (4)脳循環 3) リンパ管の構造	4	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
5. 体液の調節と 尿の生成	1) 腎臓の構造 2) 糸球体の構造 3) 尿細管の構造	2	講義	
6. 内臓機能の調節	1) 自律神経による調節 (1)交感神経の構造 (2)副交感神経の構造 2) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 (1)下垂体の構造 (2)甲状腺と副甲状腺の構造 (3)膵臓の構造 (4)副腎の構造 (5)性腺の構造	2	講義	
7. からだの支持と運動	1) 骨格とはどのようなものか (1)人体の骨格 (2)骨の形態と構造 (3)骨の組織と組成 (4)骨の発生と成長 2) 骨の連結 (1)関節の一般的構造 (2)関節の形状と可動性 3) 骨格筋 (1)骨格筋の構造 4) 体幹の骨格と筋 5) 上肢の骨格と筋 6) 下肢の骨格と筋 7) 頭頸部の骨格と筋 8) 筋の収縮	6	講義	
8. 情報の受容と処理	1) 神経系の構造 2) 脊髄と脳の構造 3) 脊髄神経と脳神経 4) 眼の構造 5) 耳の構造 6) 味覚器の構造 7) 嗅覚器の構造	2	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
9. 外部環境からの防御	1) 皮膚の構造	2	講義	
10. 生殖・発生と 老化のしくみ	1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 3) 成長と老化			
11. 解剖見学		4	演習	講義で学んだ知識を、解剖見学で確認し、統合できるようにする。見学前後にレポート課題あり。
教科書	専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験			
進 度	1年次前期 (4月～8月)			

科目名：「人体の機能」 1単位（30時間）

講師名：「 」 医院医師

目的：日常生活を営むうえで、人体がどのような役割と機能をもつか理解する。
人体の機能を学ぶことで、看護を実践するための生理学的根拠が理解できる。

- 目標：1. 生命を維持する植物機能について理解する。
2. 生命を活用する動物機能について理解する。
3. 人体を保護して種を保存する機能について理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 生理学を学ぶための基礎知識	1) 人体の素材としての細胞・組織 (1)細胞の構造 (2)遺伝子と遺伝情報 (3)組織・器官 2) 内部環境の恒常性 (1)体液 (2)体液の電解質・酸塩基平衡 (3)体温 3) 生体のリズム (1)サーカディアンリズム (2)睡眠と覚醒 4) エネルギー代謝 (1)同化作用と異化作用 (2)酵素 (3)栄養所要量・基礎代謝 (4)炭水化物・脂肪・蛋白質の代謝 (5)核酸・ビタミン・ミネラルの代謝	4	講義	
2. 栄養の消化と吸収	1) 咀嚼 (1)歯・口腔の機能 2) 嚥下 (1)咽頭・食道の機能 3) 消化と吸収 (1)胃・十二指腸の機能 (2)空腸・回腸・結腸の機能 (3)直腸・肛門の機能 (4)肝臓・胆道・膵臓の機能	4	講義	
3. 呼吸と血液のはたらき	1) 呼吸器 (1)鼻腔・咽頭・喉頭の機能 (2)気管・気管支・肺の機能 (3)呼吸機能 (4)声帯と発声 2) ガス交換 (1)外呼吸と内呼吸 (2)ガス交換 3) 酸素・二酸化炭素の運搬 4) 血液の成分と機能 (1)血液の成分	4	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
4. 血液の循環とその調節	(2)血液の物理化学特性 (3)血液の働き (4)造血と造血因子 5) 止血機構 (1)凝固と線溶 6) 血液型 (1)A B O式とRh式 1) 心臓 (1)心臓の拍出機能 (2)血液の循環の調節	4	講義	
5. 体液の調節と尿の生成	1) 尿の生成 (1)濾過 (2)再吸収と分泌 2) 細胞外液の調節 (1)抗利尿ホルモンの作用 (2)レニン-アンジオテンシン- アルドステロン系 3) 排尿 (1)尿管・膀胱・尿道の機能	2	講義	
6. 内臓機能の調節	1) ホルモンの種類 (1)ホルモンの化学的性質と作用機序 2) ホルモン分泌の調節 (1)調節ホルモン・拮抗ホルモン (2)フィードバック機構 3) 内分泌器官の構造とホルモンの機能	2	講義	
7. からだの支持と運動	1) 骨格 2) 姿勢	2	講義	
8. 情報の受容と処理	1) 神経系の機能 (1)神経細胞と情報伝達 (2)神経組織 (3)神経膠細胞 2) 中枢神経系 (1)大脳の機能 (2)視床と視床下部の機能 (3)脳幹・小脳・脊髄の機能 (4)脊髄反射 (5)中枢神経系の統合機能 3) 末梢神経系 (1)脊髄神経・脳神経の機能 4) 視覚 (1)視力と視野 (2)形状認知と色覚	4	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
9. 外部環境からの防御	(3)視覚の伝導路 (4)眼球に関する代謝 5) 聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚 6) 内臓感覚 (1)内臓感覚の受容器と認識 1) 体性感覚 (1)皮膚の機能 (2)漿膜と粘膜 (3)皮膚の感覚受容器 (4)皮膚感覚の種類 (5)深部感覚の受容器 2) 非特異的生体防御機構 (1)生体表面(皮膚・粘膜)での防御機構 (2)食細胞とサイトカイン (3)胸腺・脾臓・リンパ節 3) 特異的生体防御反応(免疫系) (1)免疫系の細胞 (2)抗原と抗体 (3)液性・細胞性免疫 (4)アレルギー反応	2	講義	
10. 生殖・発生と老化のしくみ	1) 男性生殖系 (1)精巣・精巣上体の機能 (2)付属生殖腺の機能 2) 女性生殖器 (1)卵巣の機能 (2)卵管・子宮・膣の機能 (3)性周期・妊娠・分娩・産褥 (4)乳腺 3) 受精と胎児の発生 4) 成長と老化 (1)組織および臓器の形態的・機能的加齢変化 (2)代謝機能の加齢変化	2	講義	
教科書	専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験			
進 度	1年次前期(4月～9月)			

科目名：「生化学（栄養学含）」 1単位（30時間）

講師名：「 」大学講師 「 」病院管理栄養士

- 目的：1. 生体を構成している物質の種類と構造を学び、生体内の化学変化や代謝の仕組みを理解する。
2. 各栄養素の重要性と代謝との関係を学び、人間にとっての栄養の意義や食事療法の基本を理解する。

- 目標：1. 生化学を学ぶ（自学する）上で必要な化学、数学等の基礎知識を習得する。
2. エネルギー代謝を中心に生命の活動の概略を理解する。
3. 傷病者に対して、健康状態や栄養状態をよりよい状態に改善し、疾病の予防・治療・増悪化防止をし、さらにQOLを向上させることの必要性を理解する。
4. 効果的な栄養食事療法を進めるために、関連する職種が連携したチームケアの重要性を理解できる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 生化学に必要な化学の基礎	1) 医学の基礎である生化学を学ぶ上で必要な化学	3	講義	
2. エネルギー代謝概論	1) 代謝とは (1)生体エネルギー（ATC） (2)三大栄養素のエネルギー代謝	3		
3. 細胞	1) 細胞の構造とオルガネラ			
4. 糖質代謝	1) 糖とは 2) 糖類の分類 3) 糖類の消化・代謝	3		
5. 脂肪代謝	1) 脂肪とは 2) 脂肪の分類 3) 脂肪の消化・代謝	3		
6. タンパク代謝	1) タンパク質とは 2) アミノ酸とは 3) タンパク質の分類 4) タンパク質の消化・代謝	3		
7. 核酸	1) 核酸とは 2) 核酸の代謝	3		
8. 酵素	1) 酵素とは 2) 補酵素とは			
9. ビタミン	1) ビタミンとは	2		
10. ホルモン	1) ホルモンとは			
11. その他	1) コレステロール 2) リポタンパク 3) 胆汁酸 4) 酸・塩基平衡			

科目名：「疾病の成り立ちと治療Ⅰ」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 病院医師

目的：1. 病因と病変の特徴を理解し、特に疾病による形態的機能的変化について正確な知識を養う。
2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、系統別疾患の病態・治療・検査について理解する。

目標：1. 疾病の原因となる身体的な異常や障害など、病理学の基礎的な知識を学ぶ。
2. 消化器の解剖生理および病態生理を理解し、その器質的・機能的な異常状態を理解することが出来る。
3. 主な消化器疾患について、その分類・原因・症状・診断・治療などの理解を深め、看護をするうえで必要な基礎知識を習得することが出来る。
4. 消化器がんの診断・治療および手術を受ける患者の看護の基礎知識とすることが出来る。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 病理学とは	1) 看護における病理学の意義 2) 病気の原因 3) 病気の分類	2	講義	
2. 先天異常と 遺伝子異常	1) 先天性異常 2) 遺伝子異常 3) 遺伝性疾患 4) 染色体異常による疾患	2		
3. 代謝異常	1) 細胞の損傷と適応 (1)細胞損傷とその原因 (2)細胞の適応現象 (3)細胞の死 (4)変性 2) 物質沈着	2		
4. 循環障害	1) 局所性の循環障害 2) 全身性循環障害 3) リンパの循環障害	2		
5. 炎症と免疫、 膠原病	1) 炎症 2) 免疫	2		
6. 感染症	1) アレルギーと自己免疫疾患、膠原病	2		
7. 腫瘍	1) 病原体と感染症 2) 腫瘍の定義と分類 3) 腫瘍の発生病理	2		
8. 老化	1) 悪性腫瘍の転移と進行度 2) 細胞の老化と個体の老化 3) 加齢に伴う諸臓器の変化		講義 課題学習	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 消化器の構造と機能 2. 症状・徴候とその病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 疾患の理解	1) 食道の構造の機能 2) 胃・十二指腸の構造と機能 3) 小腸・大腸の構造と機能 4) 肝臓・胆道系の構造と機能 5) 膵臓の構造と機能 1) 消化器疾患の症状・徴候とその病態生理 2) 肝臓に特有の症状・徴候とその病態生理 1) 肝機能検査 2) 超音波検査 3) 内視鏡検査 4) 肝生検 5) 放射線検査 1) 食道の疾患 2) 胃・十二指腸・腸疾患 (1)胃・十二指腸潰瘍 (4)腹膜炎 (2)胃がん (5)イレウス (3)腸炎 (6)結腸・直腸がん 3) 肝臓・胆嚢・胆道の疾患 (1)肝炎 (2)肝硬変症 (3)肝臓がん (4)急性胆嚢炎 4) 膵臓の疾患 (1)膵炎 (2)膵臓がん	2 3 3 3 3 2		解剖で学習した事を復習しておく
教科書	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 (医学書院) 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験：	(50点)	(50点)	
進 度	1 年次前期 (4月～7月)			

科目名：「疾病の成り立ちと治療Ⅱ」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 病院医師

目的：1. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾病による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。

2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと治療について理解する。

目標：1. 呼吸器系及び循環器系疾患の近年の動向を知り、看護の役割について学ぶ。

2. 基礎的な知識（解剖生理学）を習得していることを前提とし、准看護科教育で既学した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。

3. 呼吸器系や循環器系における疾病および最新の治療や検査法など、臨床における医学的知識を深める。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 呼吸器系の構造と機能	1) 呼吸器系の構造 2) 呼吸の生理	14	講義 課題学習	
2. 症状とその病態生理	1) 喀痰・咳 2) 胸痛 3) 呼吸困難 4) チアノーゼ 5) 胸水			
3. 検査と治療・処置	1) 血液検査（血ガス含む） 2) 胸水検査 3) 画像診断 4) 内視鏡検査 5) 酸素療法 6) 気道確保 7) 呼吸器外科の手術 8) 人工呼吸療法			
4. 疾患の理解と治療	1) 感染症（かぜと急性気管支炎・インフルエンザ・肺炎） 2) 結核 3) 慢性閉塞性肺疾患 4) 気管支喘息 5) 肺腫瘍 6) 間質性肺疾患（サルコイドーシス） 7) 肺血栓塞栓症 8) 呼吸不全（ARDS）			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 心臓の構造と機能	1) 心臓の構造と機能 (1)心臓の構造 (2)刺激伝導系と心臓の電気運動 (3)心臓のポンプ作用 2) 血管の構造と機能 3) 循環の調節 (1)自律神経系による調節	2	講義 課題学習	
2. 症状とその病態生理	1) 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、めまい・失神、四肢の疼痛、ショック	1		
3. 検査と治療・処置	1) 検査（心電図、胸部X線検査、心エコー法、脈波検査、心臓カテーテル法、血行動態モニタリング、心臓核医学検査、コンピュータ断層撮影（CT） 2) 治療（内科的治療、外科的治療、補助循環装置）	6		
4. 疾患の理解	1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 不整脈 5) 弁脈症 6) 心膜炎 7) 心筋梗塞 8) 肺性心 9) 先天性心疾患 10) 動脈系疾患・静脈系疾患・リンパ系疾患	7		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験： ・ ・ (50点) ・ ・ (50点)			
進 度	1年次前期・後期（5月～7月）			

科目名：「疾病の成り立ちと治療Ⅲ」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 病院又は医院医師

目的：1. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾患による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。

2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと治療について理解する。

目標：1. 各系統の疾患の近年の動向をしり、看護の役割について学ぶ。

2. 基礎的な知識（解剖生理学）を習得していることを前提とし、准看護教育で既習した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。

3. 治療や検査法など臨床における医学的知識を深める。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 腎の構造と機能	1) 腎の解剖 2) 腎の生理	1	講義 課題学習	腎臓の解剖生理学を復習して臨む
2. 症状とその病態生理	1) 腎疾患の症状	1		
3. 検査と治療	1) 腎疾患の検査	6		
4. 疾患の理解	1) 原発生糸球体腎炎 2) 慢性腎不全 急性腎不全 3) 糖尿病性腎症 4) 尿毒症			
担当： 1. 泌尿器の構造と機能	1) 泌尿器の解剖 2) 泌尿器の生理	1	講義 課題学習	泌尿器の解剖生理学を復習して臨む
2. 症状とその病態生理	1) 泌尿器疾患の症状	1		
3. 検査と治療	1) 泌尿器の検査	1		
4. 疾患の理解	1) 尿路・性器の感染症 2) 尿路通過障害と機能障害（結石） 3) 尿路・性器の腫瘍	4		
担当： 1. 内分泌の構造と機能	1) 内分泌総論 (1)ホルモンの動き (2)作用機序 (3)内分泌疾患の種類	2	講義 課題学習	内分泌、代謝器官の解剖生理学を復習して臨む
2. 検査と治療	1) 内分泌疾患の検査 2) 代謝疾患の検査	1		

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
3. 疾患の理解	(内分泌疾患) 1) 甲状腺疾患 2) 副甲状腺疾患 3) 副腎疾患 4) 下垂体疾患 (代謝疾患) 5) 糖尿病 6) 脂質異常症 7) 肥満症とメタボリックシンドローム 8) 尿酸代謝異常	7	講義 課題学習	
担当： 1. アレルギー 2. 膠原病	1) 免疫のしくみ 2) 検査と治療 3) アレルギー疾患について 4) 膠原病について	2	講義 課題学習	免疫機構に関する生理学を復習して臨む
担当： 1. 感染症	1) 感染症とは 2) 感染症の診断・治療 3) 感染症新法 4) 菌交代現象 5) 日和見感染 6) 輸入感染症	3	講義 課題学習	
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験の担当講師別配点			
	(25点)	(25点)	(30点)	
	(10点)	(10点)		
進 度	1 年次前期・後期 (10月～12月)			

科目名：「疾病の成り立ちと治療Ⅳ」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 病院医師

目的：1. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾患による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。
2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと治療について理解する。

目標：1. 基礎的な知識（解剖生理学）を習得していることを前提とし、准看護教育で既学した学習内容を想起し、不明な点を学習する。
2. 脳神経および運動器の疾患を学び、その症状と病態生理を理解し、看護に活かす事が出来る。
3. 検査・診断を学ぶとともに、現在の治療および処置の動向を知り、看護に活かす事ができる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 症状とその病態生理	1) 意識障害 (1)意識障害の分類・評価・原因 (2)遷延性の意識障害と脳死 2) 高次脳機能障害 (1)失語症・構語障害 (2)失行と失認 (3)認知症 3) 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア (1)頭蓋内圧亢進 (2)脳ヘルニア 4) 感覚機能障害 (1)感覚障害及び伝達障害 (2)視野障害	4	講義 DVD視聴 課題学習	1. 脳神経に関する症状と病態生理を理解するとともに、脳神経に障害が生じることでどんな機能が障害されてくるのか学ぶ。
2. 検査・診断と治療・処置の理解	1) 検査 (1)神経学検査 ①意識状態②脳神経系③高次脳機能 (2)補助的検査 ①脳脊髄液検査②脳血管撮影 ③CTおよびMRI 2) 治療 (1)外科的治療法 ①開頭手術②脳室－腹腔短絡術 (2)内科的治療法 ①薬物療法・血漿交換療法 ②放射線治療法	3		2. 脳神経に対する検査・診断と治療・処置を学び看護に活かす事が出来る。
3. 疾患の理解	1) 脳疾患 (1)脳血管障害	9	講義 DVD視聴	3. 脳神経系の疾患の病態

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	①クモ膜下出血 ②脳内出血 ③脳梗塞 (2)脳腫瘍 (3)頭部外傷 2) 脊髄疾患 (1)脊髄炎 (2)脊髄小脳変性症 3) 末梢神経障害 (1)糖尿病性ニューロパチー (2)ギラン・バレー症候群 4) 脱髄・変性疾患 (1)多発性硬化症 (2)パーキンソン症候群 5) 脳・神経系の感染症 (1)脳炎 (2)髄膜炎			を理解し、看護に活かせる知識を得る。
担当：				
1. 症状と その病態生理	1) 疼痛 2) 形態の異常 3) 関節運動の異常および神経の障害 4) 異常歩行または跛行	3	講義 課題学習	1. 運動器に関する症状と病態生理を理解するとともに、運動器に障害が生じることでどんな機能が障害されてくるのか学ぶ。 2. 運動器に対する検査・診断と治療・処置を学び看護に活かす事が出来る。 3. 運動器の疾患の病態を理解し、看護に活かせる知識を得る。
2. 検査・診断と 治療・処置の 理解	1) 検査 (1)画像検査 ①X線検査 ②脊髄造影検査 ③シンチグラフィ (2)骨密度の測定 (3)徒手筋力テスト (4)関節可動域 2) 治療 (1)保存療法 ①ギプス包帯法 ②牽引 (2)理学療法と作業療法 (3)手術療法 ①骨・関節の手術	3		
3. 疾患の理解	1) 外傷性（外因性）の運動器疾患 (1)骨折および脱臼 ①大腿骨頸部骨折 ②腰椎圧迫骨折 ③上腕骨顆上骨折	8		

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	(2)神経の損傷 ①脊髄損傷 ②末梢神経損傷 2) 内因性（非外傷性）の運動器疾患 (1)先天性の疾患 (2)骨・関節の炎症性疾患 ①骨髄炎 ②変形性関節症 ③関節リウマチ (3)骨腫瘍 ①良性骨腫瘍 ②悪性骨腫瘍 (4)筋および腱の疾患 ①進行性筋ジストロフィー (5)神経の疾患 ①筋萎縮性側索硬化症 (6)脊椎の疾患 ①腰椎椎間板ヘルニア ②骨粗鬆症 ③腰部脊柱管狭窄症 ④側彎症			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器（医学書院）			
副読本				
評価方法	筆記試験： (50点) (50点)			
進 度	1 年次前期・後期（8 月～10 月）			

科目名：「疾病の成り立ちと治療Ⅴ」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 病院医師

目的：1. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾患による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。

2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと治療について理解する。

目標：1. 各系統の疾患の近年の動向を知り、看護の役割について学ぶ。

2. 基礎的な知識（解剖生理学）を習得していることを前提とし、准看護科教育で既習した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。

3. 最新の治療や検査法など、臨床における医学的知識を深める。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 眼の構造と機能	1) 眼球 2) 視神経・視路 3) 眼球付属器	1	講義 課題学習	
2. 症状と その病態生理	1) 視機能に関連した症状 2) 視機能に関連しない症状			
3. 検査と治療	1) 視力検査 2) 視野検査 3) 眼球運動の検査 4) 白内障の治療 5) 緑内障の治療 6) 網膜剥離の治療	1		
4. 疾患の理解	1) 白内障 2) 緑内障 3) 網膜剥離	2		
担当： 1. 耳の構造と機能	1) 耳の構造と機能 2) 鼻の構造と機能 3) 口腔と唾液腺の構造と機能 4) 咽頭の構造と機能 5) 喉頭の構造と機能 6) 気管・食道・甲状腺の構造と機能	2	講義 課題学習	
2. 症状と その病態生理	1) 耳にあらわれる症状と病態生理 2) 鼻にあらわれる症状と病態生理 3) 咽頭にあらわれる症状と病態生理 4) 喉頭にあらわれる症状と病態生理			
3. 検査と治療	1) 聴力検査 2) 平衡感覚検査			
4. 疾患の理解	1) 外耳疾患 2) 中耳疾患	2		

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
4. 疾患の理解	1) トリコモナス膣炎 2) 真菌性膣炎 3) 子宮筋腫 4) 子宮がん 5) 子宮内膜症 6) 卵巣腫瘍 7) クラミジア感染症 8) 乳がん	4		
担当： 1. 血液の生理と造血のしくみ 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解	1) 血液の成分と機能 2) 造血のしくみ ①エリスロポエチンの産出 1) 貧血 2) 白血球増加症 3) 白血球減少症 4) 脾腫 5) リンパ節腫脹 6) 出血性素因 1) 末梢血検査 2) 骨髓穿刺・骨髓生検 3) 輸血療法 4) 化学療法 5) 造血幹細胞移植 ①同種骨髓移植 6) 分化誘導療法 7) 分子標的療法 1) 鉄欠乏性貧血・悪性貧血 2) 白血病 3) 悪性リンパ腫 4) 多発性骨髄腫 5) 血友病 6) 播種性血管内凝固症候群 (DIC)	2 2 2 4	講義 課題学習	
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [12] 皮膚 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験の担当講師別配点： (15点) (15点) (15点) (25点) (30点)			
進 度	1年次 後期 (9月～12月)			

科目名：「微生物学」 1単位（30時間）

講師名：「 」病院医師

目的：1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学び、感染症の原因である病原微生物への対応について理解する。

- 目標：1. 微生物との共存の大切さ、腸内常在微生物の健康への関わりを知る。
2. 感染に対する生体防御機構を理解し、その検査、診断、治療を知る。
3. 能動免疫と受動免疫の違いを理解し、アレルギー反応も免疫反応の一つであることを理解できる。
4. 消毒の必要性和限界を知り、滅菌の必要性を理解すると共に滅菌法を具体的に知る。
5. おもな病原微生物についてその特徴と感染症を理解する。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 微生物学の基礎	1) 微生物と微生物学 2) 微生物の性質 3) 微生物と人間 4) 微生物学のあゆみ 5) 細菌、真菌、原虫、ウイルスの性質	4	講義	
2. 感染とその防御	1) 感染と感染症 2) 感染に対する生体防御機構 3) 自然免疫のしくみ 4) 獲得免疫のしくみ 5) 感染源・感染経路から見た感染症 6) 感染症の検査と診断 7) 感染症の治療	8	講義	
3. 感染症の予防	1) バイオハザードとバイオセーフティ 2) 滅菌と消毒 3) 感染予防の理念と実際 4) ワクチンと予防接種	2	講義	
4. おもな病原微生物	1) 病原細菌と細菌感染症 (1) グラム陽性球菌・グラム陰性球菌 (2) グラム陰性好気性桿菌 (3) グラム陰性通性菌 (4) カンピロバクター属とヘリコバクター属 (5) 嫌気性菌・スピロヘータ (6) マイコプラズマ・リケッチア目 (7) クラミジア科	6	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	2) 病原真菌と真菌感染症 (1) 深在性真菌症をおこす真菌 (2) 深部皮膚真菌症をおこす真菌 (3) 表在性真菌症をおこす真菌	2		
	3) 病原原虫と原虫感染症 (1) 根足虫類 (2) 鞭毛虫類 (3) 孢子虫類	2		
	4) おもなウイルスとウイルス感染症 (1) DNAウイルス (2) RNAウイルス	6		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験			
進 度	1 年次前期 (4 月～9 月)			

科目名：「臨床薬理学」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 病院又は薬局薬剤師

目的：臨床において使用される薬物の特徴、薬理作用、薬効に影響を及ぼす要因、及び人体への影響、薬の適用方法、薬物の管理について理解する。

- 目標：1. 薬物の作用・副作用を学び、人体への影響・薬物管理について学ぶ。
2. 剤形の特徴から吸収・分布・代謝・排泄について学ぶ。
3. 服薬指導の実際を通して対象に応じた指導方法を理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 医薬品総論	1) 医薬品 2) 医薬品の作用原理とその影響 3) 医薬品の適正な使用に向けて	4	講義	
2. 主な生活習慣病に使用する薬	1) 生活習慣病 2) 高血圧 3) 狭心症 4) 心筋梗塞 5) 不整脈 6) 心不全 7) 高脂血症 8) 糖尿病	4	講義	
3. がん・痛みに使用する薬	1) がん使用する薬	4	講義	
4. 感染症に使用する薬	1) 細菌感染症 2) ウイルス感染症 3) 真菌感染症 4) 寄生虫感染症 5) 消毒薬 6) 予防接種薬	4	講義	
5. 脳・中枢神経系疾患で使用する薬	1) 中枢神経系の働きと薬 2) 抗てんかん薬 3) パーキンソン病治療薬 4) 向精神薬 5) 急性期脳血管障害の薬物療法	2	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
6. 救命救急時に使用する薬	1) 医薬品投与に関する緊急事態 2) ショックに対して使用する薬 3) 医薬品に関連した中毒の治療に使用する薬 4) 救急カートに必要な薬 5) 麻酔薬に使用する薬	2	講義	
7. アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬	1) 気管支喘息と薬物療法 (1)気管支喘息に使用する薬の分類 (2)気管支喘息に使用する薬 (3)ステロイド (4)抗アレルギー薬 2) 呼吸器疾患に関する薬 3) 関節リウマチと薬物療法 4) 全身性エリテマトーデスと薬物療法	4	講義	
8. 消化器系疾患に使用する薬	1) 消化性潰瘍治療薬 2) 健胃消化剤 3) 制吐薬、鎮吐薬 4) 胃腸機能調整薬 5) 下剤 6) 止瀉薬 7) 腸疾患治療薬 8) 肝臓・胆嚢・すい臓疾患に使用する薬	4	講義	
担当： 1. 薬物乱用防止	1) 近年の青少年の実態 2) シンナー・覚醒剤等の人体に及ぼす影響 3) 薬物を断る意識の喚起	2	講義	
教科書	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち②臨床薬理学（メディカ出版） 今日の治療薬（南江堂）			
副読本				
評価方法	筆記試験： (100点)			
進 度	1年次前期（7月～12月）			

科目名：「保健医療論」 1単位（15時間）

講師名：「 」病院医師

目的：保健医療の「これまで」「いま」「これから」という大きな流れを知ることによって、現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその背景を理解し、看護の専門職として社会に貢献する方向性・視点、役割を学ぶ。

- 目標：1. 看護や医療の原点、生命、健康、病気の定義や由来について理解する。
2. 医療の歴史を振り返り、医療と社会との関係や保健医療や看護の望ましいあり方を考える。
3. 現代日本の保健医療システムを知る。
4. 最先端の保健医療の現状とその課題について理解する。
5. これからの時代における望ましい保健医療のあり方を理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 看護や医療の原点、生命健康、病気	1) いのちを大切にすること ・専門職としての医師と看護師 ・援助される者と援助する者 (共感的な人間関係) 2) 医療と看護の原点 ・いのちと健康 ・病の体験 3) 癒しの行為と癒しの知 ・医療と宗教 ・癒しと迷信 ・文化としての病体験	3	講義	
2. 医療の歴史	1) 現代医学の起源 2) 20世紀の医療 3) 我が国の医療がたどってきた道 4) 医療観のうつりかわり	3	講義	
3. 私たちの生活と医療	1) もしも私たちが病気やけがをしたら ・救急医療と蘇生術 ・薬と安全性 2) 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3) 高齢社会と世代間のきずな 4) 障害者のノーマライゼーションと新しい社会的きずな 5) こころの健康と精神医療	3	講義	
4. 最先端の保健医療の現状とその課題	1) 先端医療技術の成果と私たちの新たな課題 2) 現代医療の最前線 3) 現代医療技術の落とし穴 4) 先端医療技術のもたらす倫理上のジレンマ 5) 産業社会の発展と人間の健康	2	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
5. これからの時代における望ましい保健医療	1) 医療を見つめ直す新しい視点 <ul style="list-style-type: none"> ・人々は医療に何を求めているか ・日本における生命倫理を巡る議論の展開 ・医療の管理と医療の評価 2) インフォームドコンセントと医療情報の開示 3) こころの通った医療を取り戻す <ul style="list-style-type: none"> ・往診の時代から在宅医療の時代へ ・緩和ケアとホスピス 4) 保健・医療の国際化 <ul style="list-style-type: none"> ・日本で働く外国人の健康問題 ・衛生環境と国際協力 	4	講義	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [1] 総合医療論 (医学書院)			
副読本	適宜資料配布			
評価方法	筆記試験			
進 度	2年次後期 (4月～12月)			

科目名：「公衆衛生学」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 専任教員

目的：人々の健康を保持・増進し、疾病予防、早期発見、早期治療、リハビリ等の包括保健医療の在り方を学び、組織的な環境衛生および健康管理について理解する。

- 目標：1. 保健・医療・福祉・環境の諸分野に関する、幅広い基礎知識の習得。
 2. 人の健康や疾病に関わる、個人的、社会的、環境的諸因子の習得。
 3. 治療医学にとどまらず疾病の予防を目的とする「予防医学」に結びつける考え方の習得。
 4. 保健福祉環境事務所を見学し、その概要及び地域の保健衛生状況を知る。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 公衆衛生の 理念	1) 公衆衛生の目的とその方法 ・公衆衛生とは ・新しい公衆衛生としての ヘルスプロモーション 2) 健康の概念と主観的健康感 3) 権利とプライマリー・ヘルスケア (PHC) ・PHCは世界共通の理念 ・アルマーアタ宣言への日本の対応	4	講義	
2. 近代公衆衛生の 歩み	1) 日本における近代公衆衛生の歩み ・近代国家の形成期 ・資本主義社会の成立期 ・戦時体制化 ・戦後復興期と高度経済成長期	2	講義	
3. 公衆衛生の 技術	1) 疫学と健康指標 ・疫学の定義 ・健康指標 2) 健康教育 3) 政策立案 ・自助・公助・共助とは ・国・都道府県・市町村の役割 4) 活動計画と評価	3	講義	
4. 公衆衛生と 国際化	1) 公衆衛生と国際化 ・公衆衛生と1つの命 ・自国の枠を超えて 2) 情報公開と生命倫理 ・診療情報の提供 ・公衆衛生のなかのバイオエシックス (生命倫理)	2	講義	
5. 公衆衛生と 地域保健	1) 地域保健 ・地域と健康 ・地域保健法の理念と指針 ・保健所の役割 ・市町村保健センターの役割	2	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
6. 感染症とその予防	2) 母子保健 (1)母子保健法・母子健康手帳 (2)保健指導・訪問指導 (3)健康診査・健康教育 (4)療育医療・健やか親子21 (5)児童虐待防止・母体保護法	2	講義	
	3) 学校保健 (1)学校保健の理念と目的 (2)学校保健のしくみと制度 (3)学校保健の健康課題	2	講義	
	4) 成人・老年保健 (1)健康増進法 (2)生活機能と保健活動			
	5) 難病保健 (1)難病保健の歴史と現在 (2)難病保健システム			
担当： 7. 公衆衛生と環境保健	1) 感染症 (1)感染症の発症 (2)今日の感染症と予防の基本 (3)結核・HIV	3	講義	南筑後保健福祉環境事務所での研修、レポート提出
1) 保健福祉環境事務所の役割 2) 地域の疾病構造や地域住民への保健活動の実際 3) 保健福祉環境事務所における保健所の役割 4) 生活環境 (1)地球環境問題 (地球温暖化・オゾン層の破壊・大気汚染・酸性雨・水質汚染) (2)身の回りの環境問題 (ごみ・廃棄物・食品安全)	6	学外研修		
	4	演習		
	5) 産業保健 (1)労働者を取り巻く状況 (2)労働者の健康状態 (3)労働衛生			
教科書	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 (医学書院)			
副読本	国民衛生の動向、資料配布			
評価方法	(90点)	(10点)		
進 度	2年次後期 (11月～1月)			

科目名：「社会福祉」 1単位（30時間）

講師名：「 」大学教授

目的：現代社会における社会福祉の意義、役割、医療、社会保障との関連について学び、対象が必要とする社会資源の活用について理解する。

- 目標：1. 社会福祉の歴史的経過を知る。
 2. 社会福祉における、生活問題を知る。
 3. 社会福祉の各制度内容とチームケアの重要性を学ぶ。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
第1章	社会保障と社会福祉の概要と具体的な保障内容	2	教科書と資料添付	看護の現場で必要なことであることを理解してもらう
第2章	社会福祉の歴史	2	国内と外国の年表を参照	日本の福祉の弱い点、強い点を外国と比較
第3章	少子高齢化を中心とした、社会問題・生活問題・社会福祉の制度と資源	4	教科書と資料添付	人間として身近な問題から考えてみる
第4章	わが国の医療保障制度の特徴と診療報酬のしくみ	2	教科書と資料添付	医療職として必要な知識を中心とする
第5章	介護保険の成立した背景、制度内容、今後の課題	4	教科書と資料添付	医療保険と介護保険のリンクする部分の理解を促す
第6章	所得保障の特徴、年金保険制度の内容、労災、雇用保険の重要な内容	4	教科書と資料添付	時代の変化に伴い制度内容が年々変化している点を注意する
第7章	生活保護制度のしくみ、その対象者の状況の具体的事例を提示	4	グループディスカッションによる事例検討	受給者のスティグマを理解
第8章	高齢者福祉、障害者福祉、国際生活機能分類（ICF）の視点	4	ビデオにより障害者の現状を見てもらう	国際生活機能分類（ICF）の視点は看介護に重要なポイントであることを知らせる
第9章	社会福祉の実践家である、社会福祉士の技術と援助過程、看護場面で必要な援助技術	4	教科書と資料添付	病院の中でのソーシャルワーカーの位置の理解
教科書	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉（医学書院）			
副読本	新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職			
評価方法	筆記試験			
進 度	1年次前期から後期（4月～9月）			

科目名：「法と倫理」 1単位（30時間）

講師名：「 」大学教授 「 」大学講師

- 目的：1. 保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を学び、看護師にとって最も重要な保健師助産師看護師法をはじめ、衛生法規と社会保障に関する法規を理解する。また、看護職の身分や教育の制度、医療過誤などの問題も広く理解する。
2. 人として生きるうえで、守るべき善良な心、生命の尊厳について学び、思いやりや優しさを持ち、人の痛みが分かる、誠実で他者の人格を尊重できる態度を養う。

- 目標：1. 法の概念および諸制度の概要を理解する。
2. 保健師助産師看護師法の目的・規定内容および業務を実施する際必要な関連法規を知る。
3. 医療職に携わる者として、知っておくべき主な関係法規を理解する。
4. 生命倫理学の諸問題に関する関心を持ち、医療従事者、患者、患者の家族などの様々な立場からこれらの問題を考える想像力を養う。
5. 各論の問題を社会制度の問題として理解し、望ましい社会制度について考察する思考力を養う。
6. 各テーマに関する様々な意見を理解したうえで、自分の意見とその根拠を述べる表現力を養う。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 法の概念	1) 法の概念 (1)法の種類 (2)成文法と不文法 (3)公法と私法 (4)実体法と手続き法 (5)法の効力の優劣 (6)法と形式 2) 法の分類 3) 衛生に関する法律 (1)概念・沿革・分類 4) 厚生行政のしくみ	2	講義	
2. 医事法の理解	1) 保健師助産師看護師法 (1)目的・定義 (2)免許・業務・試験 (3)学校・養成所 (4)医療過誤・守秘義務 (5)沿革	4	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 (1)目的・定義 (2)人材確保の促進 (3)ナースセンター 3) 医師法 (1)任務・免許・試験 (2)臨床研修・業務 4) 医療法 (1)目的・定義 (2)医療提供の理念 (3)病院等の管理・人員 (4)構造設備 (5)診察に関する諸記録 (6)公的医療機関・医療法人 5) 診療放射線技師法 6) 臨床検査技師等に関する法律 7) 理学療法士法・作業療法士法 8) 視能訓練士法・言語聴覚士法 9) 臨床工学技士法・義肢装具士法 10) 救急救命士法 11) その他 * 5～11に関する法律の (1)定義・免許 (2)試験・業務	4	講義	
3. 保健衛生法の理解	1) 地域保健法 (1)目的・基本方針 (2)保健所・市町村保健センター 2) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 3) 予防接種法 4) 食品衛生法	2	講義	
4. 薬務法の理解	1) 薬事法 (1)目的・定義 (2)医薬品等の取扱い	2	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
5. 労働法と社会 整備の理解	2) 薬剤師法 (1)任務・免許・試験・業務 3) 毒物及び劇物取締法 1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法 3) 育児休業、介護休業等育児又は家族介護 を行う労働者の福祉に関する法律 (育児・介護休業法) 4) 個人情報の保護に関する法律	2	講義	
担当： 1. イントロダク ション	1) 倫理学とは何か？ 2) 応用倫理学としての生命倫理学	1	講義	
2. 安楽死	1) 安楽死、尊厳死の定義 2) 安楽死、尊厳死の歴史的経緯 3) オランダの安楽死制度と日本の判例 4) SOLとQOL 5) 安楽死の是非をめぐる議論	3	ビデオ鑑賞 講義 ディスカッション	安楽死の是非をめぐる、 様々な意見を理解した 上で、自分の見解およ びその根拠を提示する。 権利と義務 の関係およ びその意味 を理解する。 ホスピスの 理念を理解 し、安楽死 との思想的 な対立点を 捉える。 脳死の概念 を理解した 上で、望ま しい移植制 度のあり方
3. 権利と義務	1) 権利と義務はいかなる関係か？ 2) 自由権的権利と社会権的権利	1	講義	
4. ホスピス（緩 和ケア）の思 想	1) ホスピス（緩和ケア）の理念 2) 生きる支援としてのホスピスケア 3) 生の肯定としての幸福 4) 幸福な死について考える	2	ビデオ鑑賞 講義	
5. 臓器移植	1) 脳死と臓器各国の移植 2) 臓器不足と移植制度 3) 日本の臓器移植法	2	ビデオ鑑賞 講義 ディスカッション	
6. 異種移植・人 工臓器・再生 医学	1) 異種移植とその問題点 2) 人工臓器の技術的課題 3) ES細胞からiPS細胞まで	2	ビデオ鑑賞 講義 ディスカッション	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
7. 人工妊娠中絶	1) 中絶に関する日本の状況 2) 中絶反対論と肯定論	2	講義 ディスカッション	についての意見を持つ。異種移植・人工臓器・再生医学等に関する倫理的問題を捉える。
8. インフォームド・コンセント	1) インフォームド・コンセントとパートナーリズム 2) がん告知、輸血拒否の問題	1	講義 ディスカッション	人工妊娠中絶に関する論点を捉え、自分の意見を持つ。患者の自己決定とその実践上の問題点を理解する。
教科書	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 関係法規 (医学書院) 考えよう! 生と死のこと ~基礎から学ぶ生命倫理と死生学~			
副読本	国民衛生の動向 資料は講義中に適宜配布し、参考文献はその都度指示する。			
評価方法	筆記試験： (50点) (50点)			
進 度	2年次前期・後期 (7月~12月)			

科目名：「看護学概論」 1単位（30時間）

講師名：「 」副学校長（看護師として臨床経験有）

目的：人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療福祉における看護の役割について理解し、看護行為の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

- 目標：1. 看護の原点、看護の理念を学び、看護の主要概念を理解する。
 2. 人間のライフサイクルにおける健康の意義を理解する。
 3. 看護の実践に関わる職業の成り立ちと、機能と役割を理解する。
 4. 看護理論を学ぶことで、看護に対する考えを深める。
 5. 看護における倫理の重要性を理解する。
 6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、専門職業人としての態度を身につけ、倫理に基づいた行動を学ぶ。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 看護とは何か。	1) 看護の原点と近代看護の本質 看護の変遷 2) 看護の理念を構成する要素と、それぞれの定義 人間 健康 環境 看護 3) 看護の役割・機能	4	講義 グループワーク	准看護師養成所や就業時代の経験をもとに「看護」の本質を理解する。
2. 看護の対象理解	1) 人間の「こころ」と「からだ」 ストレス、コーピング、マズロー、 発達、危機等の理論	2		
3. 健康の捉え方	1) 健康の定義、捉え方の推移 WHOの定義 2) 障がいとは 3) 国民全体の健康状態 健康と生活	4	講義 グループワーク	国民衛生の動向を利用して衛生統計資料を読み解き健康状態や水準を把握する。
4. 看護職者の教育とキャリア開発	1) 看護職の資格と養成制度 2) 看護職の継続教育とキャリア開発 認定看護師・専門看護師・特定看護師	3	講義 DVD視聴	
5. 看護における倫理	1) 医療における倫理原則 2) 看護の倫理 看護職の倫理綱領 3) 看護実践場面での倫理的ジレンマ 4) 倫理委員会	4	講義 グループ討議	事例を通して、医療における倫理原則、看護者の倫理綱領などの視点で考える。
6. 看護の提供のしくみ	1) サービスとしての看護 2) 看護サービスの提供の場 3) 看護サービスと経済の仕組み 4) 看護サービスの評価	3	講義	看護サービスと診療報酬、人員配置、評価の仕組みを理解する。

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
7. 看護理論	1) 看護理論とは 2) 中範囲理論とは 3) 主な看護理論家と理論の概略	8	講義 グループワーク 学習発表	主な理論の概略を理解する。 看護理論を選択し学習する。
8. 家族看護	1) 家族の定義 2) 家族看護とは 3) 家族アセスメント 健康な家族	2	講義	家族看護のアセスメントの視点を理解する。
教科書	専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 (医学書院) 国民衛生の動向			
副読本	「看護者の倫理綱領」 「看護覚え書」 「看護の基本となるもの」			
評価方法	課題レポート、発表会、筆記試験			
進 度	1 年次			

科目名：「基礎看護学方法論Ⅰ」 1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 専任教員（看護師として臨床経験有）

- 目的：1. 看護における技術の考え方を理解する。
2. 看護者に必要な対象との信頼関係を樹立するための基本技術を理解する。
3. 対象や場に応じた指導を行うための基礎的技術を習得する。

- 目標：1. 看護活動に共通する基本的看護技術を理解できる。
2. 看護におけるコミュニケーションの重要性と方法について理解し、看護に活用する技術を身につける。
3. 全身の状態を正確に測定することができる。
4. 基本的技法である問診、視診、聴診、触診、打診の技術を習得する。
5. 対象や場に応じた指導を行うための基礎的技術を習得する。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 看護技術の特性と意義	1) 専門的な技術とは 2) 看護技術とは 3) 安全・安楽性 4) 人を対象とする技術とは	1	講義	
2. コミュニケーション技術	1) コミュニケーションの本質 2) コミュニケーションに影響する因子 3) 看護におけるコミュニケーションの重要性 4) 看護におけるコミュニケーション手段 5) 看護における円滑なコミュニケーションの方法と実際	3	講義 ロールプレイ	
3. 学習支援	1) 看護における学習支援とは 2) 健康に生きること支える学習支援 3) 健康状態の変化に伴う学習支援 4) 看護の中に含まれる学習支援	8	講義 演習	

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. フィジカル アセスメン トの看護技 術	1) 観察技術 2) バイタルサイン 3) フィジカルアセスメント 4) 正常・異常の判断 5) 各成長発達段階との関連 6) フィジカルアセスメント時の患者・ 家族への対応	18	講義 演習	
教科書	専門分野 I 基礎看護学 [1] [2] 基礎看護技術 I・II (医学書院)			
副読本	【参考図書】 1) 患者の心に寄り添う聞き方・話し方 (メヂカルフレンド) 2) フィジカルアセスメント完全ガイド (学研)			
評価方法	筆記試験・課題レポート (35点) (65点)			
進 度	1年次 前期 (4月～7月)			

科目名：「基礎看護学方法論Ⅱ」 2単位（60時間）

講師名：「 」 「 」 「 」 「 」 専任教員（看護師として臨床経験有）

目的：准看護師教育の素地のうえに、看護師としての必要な知識、技術を積み上げるため、グループ学習を通して主体的に学ぶ姿勢を養い、科学的根拠に基づいた知識を想起し、再学習することで理解を深める。

- 目標：1. 対象にとって安全かつ安楽な日常生活の援助技術を実践する必要性を理解する。
 2. 対象の健康時の状態に近付けるための診療の補助・処置別看護の方法を理解する。
 3. 科学的根拠に基づいて、看護が実践できる基礎的能力を習得する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 環境	<p>【知識の部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間と環境の関わり 2) 健康的な生活を送るための環境調整の意義 3) 正常な身体機能を促すのに適した室内温度と湿度 4) 室内気候を構成する因子 5) 感覚温度とは何か 6) 患者にとって騒音となるものは何か 7) 騒音の排除方法 8) 患者の生活の場である清潔・整頓の意義 9) 病床を構成する物品及び寝具類 10) 患者にとって病床がどのような意味をもつか <p>【技術の部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の状況に合わせて、室温の温熱条件 2) 患者の心理的空間にも目を向け、プライバシーの保持 3) 騒音・色彩・空間などの心理的影響について理解し、苦痛の軽減をはかる工夫 4) ベットの種類 5) ベッドメイキング（クローズドベッド、オープンベッド）の原則及び注意点 6) 臥床患者のシーツ交換 	60	自己学習 グループ学習 技術演習 技術到達度チェック	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の学習はオリエンテーションを行い、自己学習期間を設け、その後、知識の確認（試験）を実施。 ・グループ学習は、4～5人でグループを組み、患者の条件を設定された各技術項目について演習する。各個人で学習ファイルを作成し、学習していく。それを基に技術演習を行い、技術到達度チェックで発表・意見交換を行い学びを深める。 ・技術試験は患者の条件を設定された各技術項目の中から実施。詳細については基礎看護学方法論Ⅱ要項参照 ・基礎看護学方法論Ⅱの単位が履修できなければ、基礎看護学実習を履修することができない。
2. 呼吸	<p>【知識の部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) バイタルサインの生理的意義 2) 意識レベル 3) 呼吸とは何か 4) 呼吸運動のメカニズム 5) 正常な呼吸と異常な呼吸 			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
3. 循環・ 体温	6) 呼吸に及ぼす因子 7) 呼吸に関する観察内容 8) 呼吸障害時の援助方法 【技術の部】 1) 呼吸の測定方法 2) 酸素療法の目的と種類 3) 酸素療法施行時の原則と注意事項 4) 酸素療法の必要物品と手段 5) 酸素療法の実施 6) 吸引の目的と種類 7) 吸引施行時の原則と注意事項 8) 吸引施行時の必要物品と手順 9) 吸引の実施 10) タッピングについて 11) タッピングの実施 12) 吸入の目的と種類 13) 吸入の実施 【知識の部】 1) バイタルサインの生理的意義 2) 循環とは 3) 血液循環の生理 4) 脈拍とは 5) 脈拍の正常と異常 6) 脈拍の変動因子 7) 脈拍の測定部位と方法 8) 脈拍に関する観察内容 9) 血圧とは 10) 血圧の正常・異常 11) 血圧の変動因子 12) 血圧の測定部位と方法 13) 血圧に関する観察内容 14) 末梢循環の観察と方法 15) 末梢循環の保持・増進のための援助方法 16) 体温とは 17) 体温の正常と異常 18) 体温の変動因子 19) 体温の測定部位と方法 20) 体温に関する観察内容 21) 体温保持のための援助方法		自己学習 グループ学習 技術演習 技術到達度 チェック	・知識の学習はオリエンテーションを行い、自己学習期間を設け、その後、知識の確認(試験)を実施。 ・グループ学習は、4～5人でグループを組み、患者の条件を設定された各技術項目について演習する。各個人で学習ファイルを作成し、学習していく。それを基に技術演習を行い、技術到達度チェックで発表・意見交換を行い学びを深める。 ・技術試験は患者の条件を設定された各技術項目の中から実施。詳細については基礎看護学方法論Ⅱ要項参照 ・基礎看護学方法論Ⅱの単位が履修できなければ、基礎看護学実習を履修することができない。

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
4. 食事・ 栄養	<p>【技術の部】</p> <ol style="list-style-type: none"> バイタルサインの正確な測定と観察 末梢循環の保持・増進のための援助方法 体温保持のための援助（罨法） <p>【知識の部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間にとって食事の意義 経管栄養法の目的・方法 経管栄養法の適応 <p>【技術の部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 経管栄養法の必要物品と手順 経管栄養法における看護師の役割・態度 経管栄養法の安全・安楽に考慮した注意点 注入前・中・後の対象の観察 		自己学習 グループ学習 技術演習 技術到達度 チェック	<ul style="list-style-type: none"> 知識の学習はオリエンテーションを行い、自己学習期間を設け、その後、知識の確認（試験）を実施。 グループ学習は、4～5人でグループを組み、患者の条件を設定された各技術項目について演習する。各個人で学習ファイルを作成し、学習していく。それを基に技術演習を行い、技術到達度チェックで発表・意見交換を行い学びを深める。 技術試験は患者の条件を設定された各技術項目の中から実施。詳細については基礎看護学方法論Ⅱ要項参照 基礎看護学方法論Ⅱの単位が履修できなければ、基礎看護学実習を履修することができない。
5. 排泄 (排尿)	<p>【知識の部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 排泄の意義と重要性 人間生活における排泄行動の重要性 排泄における看護師の役割 排泄における観察の意義 尿と排尿の観察方法 尿と排尿の正常・異常 排泄援助の目的 患者の条件にあった排泄の工夫 排尿障害時の援助方法 床上で排泄する場合の援助の要点 清潔の保持・感染予防のための方法 排泄後の後始末の方法 <p>【技術の部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象の排泄習慣を考慮し、個々にあった方法を判断し、安全・安楽な排泄の援助 排泄の援助を受ける患者の羞恥心や不安への配慮 排泄の処理・物品の消毒・後始末 排泄の観察・記録・報告 導尿の目的 導尿施行時の原則と注意事項 			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
6. 運動・姿勢体位	7) 導尿の必要物品・手順 8) 滅菌器具の取り扱いについて原則と注意事項 9) 無菌的操作を厳守して、導尿を実施 10) 導尿施行中・後の観察 11) 留置カテーテルの目的 12) 留置カテーテル施行時の原則と注意事項 13) 留置カテーテルの必要物品・手順 【知識の部】 1) 活動における生体機能の変化 2) 日常生活における姿勢と体位の意義 3) ボディメカニクス 4) 体位の種類と特徴 5) 体位変換の意義・目的 6) 体位変換時の原則・注意事項・方法 【技術の部】 1) 床上運動の実施 2) 安全・安楽に配慮して種々の体位変換の実施 ①仰臥位から側臥位 ②仰臥位から座位 ③仰臥位から端座位 3) 安楽な体位の保持 4) 関節の屈曲・伸展の他動運動 5) 移動・移送の目的 6) 移動・移送時の方法と注意事項 ①ベッドから車椅子への移動		自己学習 グループ学習 技術演習 技術到達度 チェック	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の学習はオリエンテーションを行い、自己学習期間を設け、その後、知識の確認(試験)を実施。 ・グループ学習は、4～5人でグループを組み、患者の条件を設定された各技術項目について演習する。各個人で学習ファイルを作成し、学習していく。それを基に技術演習を行い、技術到達度チェックで発表・意見交換を行い学びを深める。 ・技術試験は患者の条件を設定された各技術項目の中から実施。詳細については基礎看護学方法論Ⅱ要項参照 ・基礎看護学方法論Ⅱの単位が履修できなければ、基礎看護学実習を履修することができない。
7. 清潔・衣生活	【知識の部】 1) 清潔の概念 2) 皮膚及び粘膜の構造・生理機能 3) 清潔の生理的・心理的・社会的意義 4) 清潔保持の重要性 5) 清潔保持の種類と援助方法 6) 清潔が維持できない時の皮膚・粘膜の状態 7) 清潔が維持できないときの心理的影響 8) 清潔援助の必要性 9) 各清潔方法の目的と心身への影響 10) 各施行上の原則と注意事項 11) 病衣着脱にあたっての原則と注意事項			

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
8. 感染予防の技術	<p>【技術の部】</p> <p>1) 身体各部の清潔保持の援助 (全身清拭・足浴・洗髪・ 口腔ケア・陰部洗浄)</p> <p>2) 清潔援助時の環境条件を整える</p> <p>3) 四肢麻痺患者の寝衣着脱時の援助</p> <p>1) 個人防護具 (PPE)</p> <p>2) ガウンテクニック (課題学習)</p> <p>3) 滅菌物の扱い方 (課題学習)</p> <p>【試験項目 (患者の条件を設定)】</p> <p>事例①～事例④</p> <p>詳細は基礎看護学方法論Ⅱ要項参照</p>		自己学習 グループ学習 技術演習 技術到達度 チェック	<p>・知識の学習はオリエンテーションを行い、自己学習期間を設け、その後、知識の確認(試験)を実施。</p> <p>・グループ学習は、4～5人でグループを組み、患者の条件を設定された各技術項目について演習する。各個人で学習ファイルを作成し、学習していく。それを基に技術演習を行い、技術到達度チェックで発表・意見交換を行い学びを深める。</p> <p>・技術試験は患者の条件を設定された各技術項目の中から実施。詳細については基礎看護学方法論Ⅱ要項参照</p> <p>・基礎看護学方法論Ⅱの単位が履修できなければ、基礎看護学実習を履修することができない。</p>
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1][2] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院)			
副読本	看護技術プラクティス (学研) その他、基礎看護技術に関する看護雑誌			
評価方法	知識：筆記試験 (100点) 技術：4事例の技術確認 (100点) 評定は知識と技術の点数の平均点とする 詳細は基礎看護学方法論Ⅱの要項参照			
進 度	1年次前期から後期 (4月～12月)			

科目名：「基礎看護学方法論Ⅲ」 1単位 (30時間)

講師名：「 」 「 」 専任教員（看護師として臨床経験有）

目的：1. 看護における観察・記録・報告の意義と方法を理解する。

2. 看護をするための科学的思考プロセスを理解する。

目標：1. 看護過程の概念、構成要素（構造）を理解し、科学的、系統的な方法を用いることの重要性を学ぶ。

2. 健康上の問題を持つ人の問題解決への援助をするために、必要な情報を収集し、看護問題を判別する方法を学ぶ。

3. 看護問題を解決するための計画立案の方法を学ぶ。

4. 実践及び評価の意義を認識し、評価の方法を学ぶ。

5. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程の展開方法を学ぶ。

6. 看護記録・報告の意義と目的を理解し、その方法を学ぶ。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 看護過程とは	1) 看護過程とは何か	2	講義 課題レポート 提出	
2. 看護における看護過程の位置づけ	1) 看護をどのように考えているか 2) クライアントをどのように捉えるか 3) 看護のゴールは何か 4) 看護行為の方法			
3. 看護過程の構成要素	1) アセスメント 2) 問題の明確化 3) 看護計画の立案 4) 実施 5) 評価	2		
4. 看護過程の展開	1) アセスメント (1)アセスメントの意義 (2)情報源 (3)情報の種類 (4)情報収集の仕方 (5)情報の枠組み (アセスメントガイド) (6)看護アセスメントの領域 (7)情報の分析・解釈 (8)情報関連図 2) 問題の明確化 3) 看護計画の立案 (1)目標の設定 ・看護目標 ・解決目標 ・目標の記述方法	2 2 2 4		

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	(2)具体策の決定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択の方法 ・ 具体策の示し方 ・ 観察計画 (OP) ・ ケア計画 (CP) ・ 指導/教育計画 (EP) 4) 実施 <ul style="list-style-type: none"> (1)実施時の留意事項 (2)実施の記録 (3)経過記録 (4)手段の選択 (5)対象者への説明と了解 (6)看護の実施と対象者の反応の確認 5) 評価 <ul style="list-style-type: none"> (1)評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標達成の評価 ・ 看護過程展開の評価 ・ 再計画 (2)看護要約 (看護サマリー) 	2		
5. 事例展開の 実際 (大腿骨 頸部骨折患者 の看護)	1) アセスメント 2) 情報関連図 3) 問題リスト 4) 看護計画 5) サマリー	8		
6. 看護記録とは	1) 看護記録と報告の意義・目的 2) 看護記録の必要条件 (情報開示を含む) 3) 看護記録の方法と種類 4) POSの理念と構造 5) POMRを構成する要素と看護過程の 構成要素の関連づけ	2		
教科書	専門分野 I 基礎看護 [1] 基礎看護技術 I (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験：	(80点)	(20点)	
進 度	1年次前期から後期 (6月~10月)			

科目名：「基礎看護学方法論Ⅳ」 1単位 (30時間)

講師名：「 」病院臨床工学技工

「 」 「 」専任教員（看護師として臨床経験有）

目的：准看護師教育をふまえて、臨床看護技術の強化および医療機器に対する基礎的知識を養う。
特に、与薬に関する医療事故が多いため、注射の援助技術を再学習して、理解を深める。

- 目標：1. 診察・検査に伴う患者の心理を理解し、看護の方法を理解する。
2. 放射線治療の方法と看護を理解する。
3. 薬物療法における基礎知識を身につけ、安全・安楽な与薬技術を習得する。
4. 症状（疼痛）のある患者の看護の方法を理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 医療機器の原理と実際	1) 医療機器の原理 2) 測定用ME機器 3) 治療用ME機器	8	講義 課題学習	
担当： 1. 診察と看護 2. 検査と看護 3. 包帯法 4. 創傷管理 5. ドレナージの種類と管理	1) 診察時の看護と役割 1) 検査の種類と看護の役割 1) 包帯法の目的と種類（演習） 1) 創傷の治癒過程 2) ドレッシングの種類と適応 1) ドレナージ目的と方法及び管理	6	講義・演習	
担当： 1. 放射線治療と看護 2. 痛みのある患者の看護	1) 放射線治療法について 2) 放射線治療を受ける患者の看護 3) 放射線防護と管理 1) 痛みの定義 2) 痛みに影響する因子 3) 痛みのメカニズム 4) 痛みをもつ患者の特徴と看護	2 4	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
3. 与薬（薬物・輸液療法）と看護	1) 与薬の基礎知識 (1) 剤形と吸収経路 (2) 看護師の役割 2) 注射の援助技術 (1) 皮内注射 (2) 皮下注射 (3) 筋肉内注射 (4) 静脈内注射・点滴の留置方法 (5) 採血方法 3) 輸血療法について 4) 医療廃棄物の取り扱い	10	講義 演習	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1] [2] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 (医学書院) 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験・出席状況 (30点) (20点) (50点)			
進 度	1 年次後期 (1 月)			

科目名：「成人看護学概論」 1単位 (30時間)

講師名：「 」専任教員(看護師として臨床経験有)

目的：成人期にある対象の特徴と健康の維持増進の重要性を理解し、健康障害時の看護について学ぶ。

- 目標：1. 成人期の各期における特徴を理解し、成人がどのような役割を担っているか学ぶことができる。
2. 人口の動向を知り、成人期における疾病構造と受療動向を理解することができる。
3. 成人期における健康障害が生活習慣やストレスと関連していることを理解し、職業に関連した健康障害と予防策を学ぶことができる。
4. 健康の定義を理解し、成人の健康な生活の獲得と増進について理解することができる。
5. 成人教育における理論を学ぶことで、健康教育や患者指導に繋がることを理解できる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 成人期の特徴	1. 成人発達に関する理論家の考え方 2. 成人各期の特徴 1) 青年期 2) 壮年期 3) 向老期	6	講義 課題学習	①理論家の発達理論・課題を比較しながら、成人について分かる ②各期の特徴と健康問題について理解する ③ライフサイクルにおける成人期の位置づけと役割関係について理解する ④家族看護の必要性について分かる
2. 成人期の位置づけ・役割関係	1. 成人期の役割 1) ライフサイクルにおける成人の位置づけ 2) 家族・社会における役割 2. 家族看護			
3. 成人保健の動向	1. 人口動態 2. 3大死因の動向 3. 入院・受療率の動向 4. 5大疾患の変遷 成人期の事例を用いて生活習慣病と5大疾患についてのグループワーク	2 6 4	講義 GW 発表	①社会の状況と合わせ、人口動態や疾病の構造について理解する ②成人期の事例を基にグループワークを行う ③まとめた内容を発表し、クラス全体で意見交換を行う
4. 成人期の健康と生活	1. WHOの健康の定義 2. 個人の健康観に影響を及ぼす因子 3. ヘルスプロモーション 4. 健康日本21 5. 健康観	4	講義	①健康の定義を理解し、行政との関わりが分かる

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
5. 成人期の健康障害	1. 職業における健康障害 2. ストレスに関する健康障害 3. ソーシャルサポート 4. 成人期の事例を用いて、職業・ストレスの関係性・予防方法についてのグループワーク	2 2	課題学習 講義 GW・発表	まとめた内容を発表し、クラス全体で意見交換を行う
6. 成人の健康生活を促すための看護技術	1. 成人教育とは 2. 自己効力感とは 3. エンパワメントとは 4. 健康教育とは 5. 安全・安楽・安心を援助する看護技術とは	2 2	講義 講義	
教科書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学(1) 成人看護学概論 (メディカ出版)			
副読本				
評価方法	筆記試験 (70点) 課題レポート (30点)			
進 度	1 年次前期・後期 (4月～10月)			

*GW=グループワーク

科目名：「成人看護学方法論Ⅰ」 2単位 (60時間)

講師名：「 」 「 」 「 」 「 」 病院看護師
「 」 専任教員 (看護師として勤務経験有)

目的：成人期にある対象の特徴と健康の維持増進の重要性を理解し、健康障害時の看護について学ぶ。また、リハビリテーションの概念と対象者を理解し、他職種と連携しながら障害に応じた看護の役割を知り、自立に向けた看護の基本を学ぶ。

- 目標：1. 急激な身体侵襲により、身体機能障害・機能低下を受けた対象の生体反応や健康状態の特徴を理解し、生命維持に対する看護を学ぶ。
2. 生命の危機を脱した対象の健康回復に向けた看護の方法を学ぶ。
3. 急性期及び回復期におけるリハビリテーション看護の方法を学ぶ。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 急性期にある患者の看護 消化機能に障害のある人の看護 (事例を含む)	1) 手術療法時の看護 (1)手術前～術中の看護 ①OP前検査 ②OP前訓練 ③不安アセスメント ④処置 ⑤訪問 ⑥麻酔・術式の説明 ⑦手術当日の看護 ⑧患者受け入れ準備、麻酔導入 ⑨OP室入室と申し送り ⑩直接・間接介助の役割	4	講義	術後合併症を予防するためのリハビリテーション看護の方法を学ぶ
	(2)術後の看護 ①術後の身体の侵襲、変化 ②合併症に対する看護 ・呼吸器合併症に対する看護 ・循環器合併症に対する看護 など ③ドレーンの管理・創処置 ④侵襲からの回復の促進	4	講義 演習 課題レポート提出	
	2) 術後社会復帰のための生活指導	2		
	3) 消化器疾患と諸症状に対する看護 (1)食道 (2)胃・十二指腸 (3)膵臓 (4)胆のう・肝臓 (4)小腸・大腸 (ストーマ含む)	4	講義	・消化器疾患患者の事例を通して、急性期での必要な看護を学ぶ。また、演習を通して手術前から手術後の看護を学ぶとともに、術後合併症を理解し、必要な看護を学ぶ。
	4) 検査時の看護 (1)放射線検査を受ける患者の看護 (2)内視鏡検査を受ける患者の看護	4	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	11) 車椅子トランスファー (1)トイレ動作 (2)車椅子移動 12) 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (1)脳血管障害のある患者の看護 ①意識障害 ②運動障害 ③構音障害・失語 ④摂食・嚥下障害 ⑤失認・失行 ⑥徒手筋力テストの測定 (2)パーキンソン病患者の看護 ①言語障害 ②呼吸障害 ③自律神経障害 ④精神機能障害	4	演習 講義 課題レポート	実習室で演習
担当： 事例展開（肝疾患）		10		
教科書	専門分野Ⅱ成人看護学〔5〕消化器（医学書院） 専門分野Ⅱ成人看護学〔7〕脳神経（医学書院） 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 別巻 リハビリテーション看護（医学書院）			
副読本				
評価方法	筆記試験： (60点)	(60点)	(60点)	
	課題レポート： (20点)			
進 度	1年次前期から後期（9月～12月）			

科目名：「成人看護学方法論Ⅱ」1単位 (30時間)

講師名：「 」 「 」 病院看護師

目的：成人期にある対象の特徴と健康に維持増進の重要性を理解し、健康障害時の看護について学ぶ。

目標：1. 慢性的な経過をたどる健康障害の対象の特徴を理解して、セルフケアに対する援助方法を学ぶ。

2. 終末期にある対象の特徴を理解して、人生の最期を支える援助方法を学ぶ。

3. 終末期にある対象を通して自己の死生観を考えることができる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 慢性期にある患者の看護 循環機能に障害のある人の看護 (事例を含む)	1) 循環器疾患からくる諸症状の看護 (1)胸痛・動悸・呼吸困難 (2)浮腫・チアノーゼ・めまい・失神 (3)四肢の疼痛・ショックに対する看護	2	講義	・循環器疾患患者の事例を通して、慢性期での必要な看護を学ぶ。 また、演習を通して循環器看護に必要な心電図モニターの知識と技を学ぶ。 さらに、様々な薬物療法の注意点や心臓リハビリテーションと看護を学び、患者が安全に在宅生活を送れるようにセルフケアに対する看護を学ぶ。
	2) 検査時の看護 (1)心臓カテーテル法を受ける患者の看護 (2)血行動態モニタリングを受ける患者の看護 ①スワン-ガンツカテーテル ②観血的動脈圧モニタリング ③中心静脈圧の測定 (3)心臓図モニターを受ける患者の看護 (心電図モニター装置の演習を含む) (4)その他の検査(心エコー・心臓核医学・CT・MRIなど)を受ける患者の看護	2	講義	
	3) 治療・処置に対する看護 (1)薬物療法を受ける患者の看護 ①降圧剤 ②昇圧剤 ③利尿薬 ④抗不整脈薬 ⑤抗凝固薬 (2)安静療法時の看護 (3)冠状動脈バイパス術等の外科的治療に対する看護	4	講義	
	4) 循環器疾患患者の看護	1	講義	
	5) 心臓リハビリテーションと看護	1		
	6) セルフケアに対する看護	6		
担当： 2. 終末期にある患者の看護 呼吸機能に障害のある人の看護 (事例を含む)	1) 呼吸器疾患からくる諸症状の看護 (1)咳・喀痰のある患者の看護 (2)血痰・喀血のある患者の看護 (3)呼吸困難のある患者の看護	2	講義	・呼吸器疾患患者の事例を通して、終末期での必要な看護を学ぶ。

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	2) 検査に対する看護 (1)動脈血ガス分析 (2)気管支鏡 (3)CT下肺生検 3) 治療・処置に対する看護 (1)酸素療法を受ける患者の看護 ①酸素吸入 ②在宅酸素療法 (2)人工呼吸療法を受ける患者の看護 ①陽圧呼吸 (IPPV) ②合併症 (3)薬物治療を受ける患者の看護 ①副腎皮質ステロイド療法を受ける患者の看護 ②化学療法を受ける患者の看護 4) 喀痰困難時の看護 (口腔ケアの演習) (1)肺理学療法 ①リラクゼーション ②スクイーミング (3)呼吸訓練及び呼吸筋訓練 (2)口腔ケアの実際 (演習) 5) 症状緩和に対する看護 ①疼痛緩和 (鎮痛剤、麻薬、放射線治療) 6) 患者及び家族に対する終末期の看護 (1)患者及び家族の意志の確認 (セデーションに対して) (2)患者及び家族との コミュニケーション	2 4 4 2	講義 講義 講義 演習 講義	また、呼吸器疾患に関する症状及び治療・処置に対する看護を学ぶ。 人生の最期を支える援助方法を学ぶと同時に、終末期の患者を抱える家族への援助方法を学ぶ。 さらに、患者を通して、自己の死生観を考えられるようになる。
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院) 別巻 臨床外科看護総論			
副読本				
評価方法	筆記試験： (50点) (50点)			
進 度	1年次前期から後期 (10月～12月)			

科目名：「老年看護学概論」 1 単位 （30時間）

講師名：「 」専任教員（看護師として臨床経験有）

目的：老年期にある対象の特徴を理解し、老化に応じた看護、健康障害をもつ老年者と家族に対する看護について理解する。

目標：1. 老年期にある対象の特性を総合的にとらえ、老年看護の必要性と役割について理解する。
2. 老年者が健康に生活する意義について学び、老化に伴う保健活動と看護の役割について理解する。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 高齢者の理解	1) 高齢者とは 2) 高齢者の特徴と理解 3) 高齢者にとっての健康 4) 高齢者とQOL 5) 加齢に伴う変化 6) 高齢者の理解とコミュニケーション	4	講義 グループワーク	高齢者に対する 思いや考えを出 し合い自分の感 覚を認識する。
2. 高齢者をとりまく 社会	1) 高齢者と家族 2) 高齢者を支える制度 ①医療保険制度 ②介護保険制度 ③公的年金制度 ④生活保護制度 ⑤成年後見制度 ⑥日常生活自立支援事業 3) 高齢者を支える社会資源	4	講義	諸制度の理解を 深めさせる。 在宅看護論との 関連の中で理解 を深めさせる
3. 高齢者看護の基本	1) 高齢者看護の特性 2) 高齢者看護にかかわる諸理論 3) 高齢者看護における倫理 4) 高齢者に対するアセスメント 5) 高齢者のバイタルサインの特性 6) 高齢者によくみられる疾患 7) 高齢者へのケアマネジメント 8) 高齢者看護におけるチームアプローチ 9) 高齢者のリスクマネジメント	4	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
4. 高齢者のヘルスプロモーション	1) 高齢者の健康づくり 2) 生活習慣病予防 3) 転倒予防/運動器の機能向上 4) 認知症予防 5) 健康増進プログラム参加者の事例	2		高齢者との触れ合いの実際を通して理解を深める。
5. 生活を支える看護	1) コミュニケーション 2) 歩行・移動 3) 食事 4) 排泄 5) 清潔・衣生活 6) 活動・休息 7) 睡眠 8) セクシュアリティ 9) 住まい 10) 経済状態 11) 社会参加	12	講義 演習	ナーシング・グラフィカ①第5章参照 ロールプレイを取り入れながら、学生自ら考える機会を多く取り入れる。
6. 家族への看護	1) 高齢者を介護する家族の生活と健康 2) 高齢者を介護する家族への看護展開 3) 家族介護の課題	4	講義	ナーシング・グラフィカ②第6章参照
教科書	ナーシング・グラフィカ①「高齢者の健康と障害」メディカ出版			
副読本	なし			
評価方法	筆記試験・課題レポート			
進 度	1年次 前期・後期（4月～11月）			

科目名：「老年看護学方法論Ⅰ」1単位（30時間）

講師名：「 」専任教員（看護師として臨床経験有）「 」病院看護師

目的：老年期にある対象の特徴を理解し、加齢に応じた看護、健康障害をもつ高齢者と家族に対する看護について理解する。

- 目標：1. 高齢者看護技術の特徴を踏まえ、その実際を学ぶ。
 2. 高齢者に多い症状や疾患を理解する。
 3. 高齢者の健康障害時の諸問題について理解し、健康障害のレベルに応じた看護について学ぶ。
 4. 福祉、中間施設における対象者の状況を把握し、対象者の特徴及び生活の実際を知る。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 福祉、中間施設における高齢者	1) 施設の特徴及び、スタッフの職種と役割の理解 2) 高齢者の健康上のニーズや、日常生活の実際 3) 高齢者とのコミュニケーションの実際	16	体験学習 老人施設(2日) 課題提出	
担当： 1. 疾患・障害に対する看護	1) 脱水 2) 摂食・嚥下障害 3) 低栄養 4) 便秘・下痢 5) 睡眠障害 6) 褥瘡 7) 貧血 8) 浮腫 9) 視覚・聴覚の障害 10) 肝機能障害 11) 高血圧 12) 不整脈 13) 高齢者とがん	5	講義	
2. 認知症・うつ病・せん妄の看護	1) 認知症 2) うつ病 3) せん妄	4	講義 DVD視聴	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
3. 治療を受ける高齢者の看護	1) 薬物療法 2) 手術療法 3) リハビリテーション 4) 診察・検査 5) 入院 6) 退院 7) 行動制限	4	講義	
4. 終末期の看護	1) 高齢者の死と医療・ケア 2) 終末期看護の実践 3) 認知症高齢者の終末期ケア 4) 看取りを終えたスタッフへのケア	2	講義	
教科書	ナーシング・グラフィカ①「高齢者の健康と障害」(メディカ出版) ナーシング・グラフィカ②「高齢者看護の実践」(メディカ出版)			
評価方法	課題レポート： (50点) (50点)			
進 度	1年次 前期から後期 (講義：6月～11月)			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 腎機能に障害のある人の 看護	(2)合併症の看護 (3)看護の実際	6	講義 演習	高齢者の特徴を 織り込んだ、内 分泌・腎泌尿器 に障害のある事 例をもとに、看護 過程の展開し、 演習を通して実 践技術を学ぶ。
	3) 腎・泌尿器症状のある患者の 看護 ①浮腫 ②高血圧 ③排尿障害 ④尿失禁 ⑤血尿膿尿 ⑥疼痛 4) 検査を受ける患者の看護 5) 薬物療法・食事療法を受ける 患者の看護 6) 手術を受ける患者の看護 7) 透析療法を受ける患者の看護 8) 腎移植の手術を受ける患者の 看護 事例展開			
教科書	ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 (メディカ出版) 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 (医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験：	(30点)	(30点)	(40点)
進 度	2年次 前期 (4月～7月)			

科目名：「小児看護学概論」1単位（30時間）

講師名：「 」専任教員（看護師として臨床経験有）

目的：小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達段階に応じた養護と健康障害をもつ児とその家族に対する看護について学ぶ。

- 目標：1. 小児の特性を学び、小児看護の機能と役割を理解する。
 2. 小児各期における成長発達過程と小児を取り巻く環境を学び、小児保健活動と看護の役割を理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 小児看護の特徴と理念	1) 小児看護の対象 2) 小児看護の特徴 3) 小児医療の変遷 4) 小児看護の変遷 5) 子ども観の変遷 (1)世界の子ども観 (2)わが国の子ども観 6) 小児看護における倫理 (1)子どもの権利条約 7) 小児看護の課題と展望	6	講義	
2. 子どもの成長発達	1) 成長・発達の原則 2) 成長・発達に影響する因子 (1)遺伝(2)ホルモン(3)疾病(4)栄養 (5)心理(6)社会的環境 3) 成長・発達の評価	10	講義 (GW含む)	
3. 新生児、乳児の成長発達と看護	1) 形態的・機能的発達 2) 心理・社会的発達 (1)母子関係			
4. 幼児の成長発達と看護	1) 形態的・機能的発達 (1)基本的生活習慣の確立 2) 心理・社会的発達 (1)運動と遊び			保育所実習での体験を活かし子どもたちの様子をイメージさせる
5. 学童の成長発達と看護	1) 形態的・機能的発達 2) 心理・社会的発達 (1)学習と遊び (2)セルフケア			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
6. 思春期の成長発達と看護	1) 形態的・機能的発達 (1)第二次性徴 2) 心理・社会的発達 (1)いじめ・不登校			自己の思春期を振り返り、思春期の子どもとの関わり方について考える
7. 小児の栄養	1) 子どもにとっての栄養の意義 (1)食育 2) 発達段階別の子ども栄養の特徴と看護 (1)離乳食 (2)おやつ	2	講義	
8. 家族の特徴とアセスメント	1) 子どもにとっての家族とは 2) 現代家族の特徴 3) 家族のアセスメント	2	講義	
9. 小児と家族を取り巻く社会	1) 子どもをめぐる諸統計 (1)乳児死亡率 (2)合計特殊出生率 など 2) 子どもをめぐる法律と政策 (1)児童福祉法(2)母子保健法(3)児童の虐待防止法(4)エンゼルプラン(5)健やか親子21 3) 子どもの事故と安全教育 4) 健康診査 5) 学校保健 6) 予防接種	10	講義	「わが国の母子保健」「国民衛生の動向」を持参 発達段階別に起こりやすい子どもの事故をイメージさせる
教科書	専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)			
副読本	わが国の母子保健 国民衛生の動向			
評価方法	筆記試験 課題レポート			
進 度	1年次 前期から後期 (4月～10月)			

科目名：「小児看護学方法論Ⅰ」 1単位 (30時間)

講師名：「 」病院医師 「 」 「 」病院看護師

目的：小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達に応じた養護と健康障害をもつ児とその家族に対する看護について学ぶ。

- 目標：1. 小児の主な疾患と検査・治療について理解する。
 2. 健康障害のある小児および家族の特徴が理解できる。
 3. 健康障害のある小児の成長発達を促し、病気の回復、健康の保持増進を行うための援助ができる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 子どもの診断	1) 病歴の取り方 2) 年齢別の診察 3) 発育の評価 4) 発達の評価	2	講義	
2. 先天異常・ 新生児の障害	1) 新生児仮死 2) 呼吸窮迫症候群 3) 胎便吸引症候群 4) ダウン症候群			
3. 代謝性障害・ 内分泌障害	1) 脱水 2) 糖尿病	2		
4. 免疫・アレルギー リウマチ性疾患				
5. 感染症	1) ポリオ 2) 麻疹・風疹 3) 水痘・帯状疱疹 4) 流行性耳下腺炎 5) インフルエンザ 6) RSウイルス			
6. 呼吸器障害	1) かぜ症候群 2) 肺炎 3) 気管支喘息	2		
7. 循環器障害	1) 先天性疾患 2) 川崎病 3) 突然死			
8. 消化器障害	1) 先天性の形態異常 2) 肝臓胆道疾患 3) 食道・腸疾患	2		
9. 悪性新生物 血液・造血器障害	1) 貧血 2) 出血性疾患 3) 白血病	2		
10. 腎・泌尿器・ 生殖器障害	1) 急性糸球体腎炎 2) ネフローゼ症候群 3) 紫斑病性腎炎 4) 急性腎炎	2		
12. 運動器障害	1) 先天性疾患 2) 筋ジストロフィー 3) 筋無力症			
13. 神経障害 精神障害	1) 痙攣 2) てんかん 3) ウエスト症候群 4) 自閉症 5) チック 6) 神経性食思不振症	2		
14. 事故・外傷・虐待	1) 被虐待児症候群 2) 事故			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 先天異常の看護	1) ダウン症候群 2) 18トリソミー	2	講義	子どもに特有な疾患に対し、健康段階や成長発達に応じた看護援助を学ぶ
2. 新生児の障害の看護	1) 高ビリルビン血症 2) 超低出生体重児			
3. 代謝性障害の看護	1) I型糖尿病 2) アセトン血性嘔吐症	2		
4. 内分泌障害の看護	1) 下垂体疾患 2) 先天性副腎過形成			
5. 免疫・アレルギーリウマチ性疾患	1) 気管支喘息 2) 食物アレルギー 3) 若年性関節リウマチ	2		
6. 感染症の看護	1) 麻疹 2) 風疹 3) 流行性耳下腺炎 4) 水痘 5) 髄膜炎 6) 溶血性レンサ球菌感染症	2		
7. 呼吸器障害の看護	1) 風邪症候群 ②肺炎	2		
8. 循環器障害の看護	1) ファロー四徴症 2) 川崎病			
9. 消化器障害の看護	1) 形態異常の疾患 2) 腸重積	2		
10. 血液・造血器障害の看護	1) 貧血 2) 出血傾向 3) 輸血療法 4) 血友病			
11. 腎・泌尿器・生殖器障害の看護	1) ネフローゼ症候群 2) 急性糸球体腎炎 3) 尿路感染症	2		
12. 運動器障害の看護	1) 先天性肢関節脱臼 2) 先天性内反足 3) 筋性斜頸 4) 脊柱側彎症			
13. 神経・精神障害の看護	1) けいれん 2) 脳性まひ 3) 神経症 4) ADHD	2		
14. 事故・外傷・虐待の看護	1) 外傷 2) 誤飲・誤嚥 3) 溺水 4) 熱傷 5) 虐待			
教科書	専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験： (50点) (50点)			
進 度	1年次 後期 (10月～12月)			

科目名：「小児看護学方法論Ⅱ」 1単位 (30時間)

講師名：「 」病院看護師 「 」専任教員(看護師として臨床経験有)

目的：小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達段階に応じた養護と健康障害をもつ児とその家族に対する看護について学ぶ。

- 目標：1. さまざまな健康の段階にある小児および家族の特徴が理解できる。
 2. さまざまな健康段階にある小児の成長発達を促し、病気の回復、健康の保持増進を行うための援助ができる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 疾病・障害をもつ小児と家族の看護	1) 疾病・障害が小児と家族に与える影響 2) 小児の健康問題と看護	2	講義	病気や入院が子どもとその家族にどのような影響を及ぼすのか看護の視点で考えさせる
2. 小児における疾病の経過と看護	1) 慢性期にある小児と家族の看護 小児慢性特定疾患治療研究事業 2) 急性期にある小児と家族の看護 生命徴候が危険な状況 3) 周手術期の小児と家族の看護 子どもの手術の特徴 プレパレーション 4) 終末期の小児と家族の看護 子どもの死の概念 死に対する子どもの反応と看護	2		
3. 症状を示す小児の看護	1) 一般状態 2) 痛み 3) 呼吸・循環系の症状 4) 発熱 5) 消化器症状 6) 水分・電解質異常 7) 血液 8) 神経・筋症状	2		子どもの健康障害や症状の特徴を知り、成長発達に応じた看護の援助を理解させる
4. 検査・処置を受ける小児の看護	1) 検査・処置総論 (1)発達に応じた説明と同意 2) 薬物動態と薬用量の決定 3) 検査・処置各論	2		
5. 外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護	1) 外来における小児と家族の看護	2		

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
6. 小児の入院と 小児・家族への 看護	1) 小児の入院環境 2) 小児の入院と小児・家族の看護	2	講義	
7. 健康障害をもつ 小児の生活と 看護	1) 生活制限のある小児と家族の看護 2) 在宅療養を行う小児と家族の看護	1		
8. 障害のある小児 と家族の看護	1) 障害のとらえ方 2) 障害のある小児と家族の特徴 3) 障害のある小児と家族の社会的支援			
9. 小児の看護技術 の演習 (小児のアセスメント)	・バイタルサイン測定 ・点滴静脈内注射 (固定法含む) ・持続点滴、輸液ポンプの取扱 ・抑制 (採血・腰椎穿刺) ・採尿 ・母性	7	演習	成人の看護技術とは異なる安全・安楽を考慮した子どもへの援助技術を体験させる
担当： 10. 小児看護に 必要な技術	1. 小児の生活と生活指導 1) 食事の介助 2) 排泄の介助 3) 衣生活の介助 4) 遊びと生活 ・哺乳・離乳食・おやつ ・おむつ交換 ・衣服の着脱の介助 ・遊ばせ方とおもちゃ	10	演習	グループワーク
教科書	専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)			
副読本				
評価方法	筆記試験： (70点)		課題学習・発表会： (30点)	
進 度	2年次 前期 (4月～8月)			

科目名：「母性看護学概論」 1単位 (30時間)

講師名：「 」専任教員(助産師として臨床経験有)

目的：母性の特性を理解し、母性各期にある人を統合された存在として認識し、その対象が健全なライフサイクルを送るために必要な看護を学ぶ。

目標：1. 母性概念及び母性各期の特徴と発達段階を総合的に学び、母性看護の機能と役割を理解する。

2. 母性各期の健康に影響を及ぼす諸因子を学び、母性の健康維持増進に向けての母性保健活動と看護の役割を理解する。

3. 性と倫理について考えることができる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 母性看護学の概念	1) 母性とは	2	講義	
	2) 母子関係と家族発達			
	3) セクシュアリティ (人間の性)	2		
	4) ジェンダー			
	5) リプロダクティブヘルツ/ライツ			
	6) ヘルスプロモーション			
	7) 母性看護のあり方	2		
	8) 母性看護における倫理			
	9) 母性看護における安全・事故防止			
2. 母性看護の歴史の変遷	1) 母性看護の歴史の変遷と現状	2		
	2) 母性看護の対象を取り巻く環境			
3. 人間の性と生殖	1) 人の発生と遺伝的要素	2		
	(1)発生のメカニズム			
	(2)染色体・遺伝子			
	2) 性周期と生殖機能のメカニズム	2		
	(1)性周期とホルモン			
	(2)受胎のメカニズム			
3) 性行動	(1)性反応	2		
	(2)性感染症			
4. 母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化	2		
	2) 女性・家庭のライフサイクル			
	3) 母性の発達・成熟・継承			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
5. 女性の健康と政策	1) 地域における子育て支援 2) 就労と母性 3) 保健統計からみた母子の健康（母体保護法・母子保健法・労働基準法・戸籍法・死産の届出に関する規定・男女雇用機会均等法）	2 2		
6. 女性のライフサイクル各期の健康問題と看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護（第二次性徴・心理的特徴・性感染症） 3) 成熟期の健康と看護（家族計画の意義・不妊治療と看護・人工妊娠中絶・性暴力・喫煙） 4) 更年期の健康と看護（ホルモンの変化と閉経、骨粗鬆症の予防） 5) 老年期の健康と看護	2 2 4 2		
教科書	専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護概論（医学書院）			
副読本	国民衛生の動向、わが国の母子保健（母子保健事業団）			
評価方法	試験、授業の取り組み			
進 度	1年次前期から後期（7月～1月）			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 3. 産褥期における看護	3) 産婦・胎児、家族のアセスメント (1)産婦と胎児の健康状態のアセスメント (2)産婦・家族の心理・社会面のアセスメント (3)産婦と家族における看護上の問題の明確化	2	講義	
	4) 産婦と家族の看護 (1)看護目標と産婦のニード (2)安全分娩への看護 (3)安楽な分娩への看護 (4)出産体験が肯定的になるための看護 (5)基本的ニードに関する看護 (6)家族発達を促す看護			
	5) 分娩期の看護の実際 (1)分娩第1期の活動期の看護 (2)分娩第1期活動期の終盤の看護 (3)分娩第2期の看護 (4)分娩第3・4期の看護	2	講義	
	1) 産褥経過 (1)産褥期の身体的変化 (2)産褥期の心理・社会的変化	4	講義	
	2) 褥婦のアセスメント (1)産褥経過の診断 (2)褥婦の健康状態のアセスメント	4	講義	
	3) 褥婦と家族の看護 (1)身体機能の回復および進行性変化への看護 (2)児との関係確立への看護 (3)育児技術にかかわる看護 (4)家族関係再構築への看護	2	講義	
	4) 施設退院後の看護 (1)育児不安と育児支援 (2)職場復帰			

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
4. 新生児期における看護	1) 新生児の生理 (1)新生児とは (2)新生児の機能 2) 新生児のアセスメント (1)新生児の診断 (2)新生児の健康状態のアセスメント 3) 新生児の看護 (1)出生直後の看護 (2)出生後から退院時までの看護 (2)生後1ヶ月健康診査に向けた退院時の看護	2 3	講義 講義	
5. 母性看護技術演習	1) 産褥子宮の測定 2) 乳管開通法 3) 沐浴（臍処置含む） 4) 体温測定 5) 身長・体重測定 6) 児の抱き方 7) 授乳、排気の仕方 8) 胎盤計測 9) 保育器の取り扱い	3	演習	
教科書	専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論（医学書院）			
副読本				
評価方法	筆記試験・出欠席状況：		(50点)	(50点)
進 度	1年次後期（10月～3月）			

科目名：「母性看護学方法論Ⅱ」 1単位 (30時間)

講師名：「 」 医院医師 「 」 病院助産師 「 」 専任教員（助産師として臨床経験有）

目的：母性の特性を理解し、母性各期にある人を統合された存在として認識し、その対象が健全なライフサイクルを送るために必要な看護を学ぶ。

目標：1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常経過を理解し、状態に応じた看護を学ぶ。
2. 不妊治療と看護を理解する。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常	1) 妊娠の異常（流産・早産・常位胎盤早期剥離・前置胎盤・妊娠性高血圧症候群・貧血） 2) 分娩の異常（胎児機能不全・帝王切開手術） 3) 産褥の異常（子宮復古不全） 4) 新生児の異常（死産） 5) 精神障害合併妊婦	2 2 2 2 1	講義	
2. 不妊治療	1) 不妊治療の実際	1		
担当：				
3. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常の看護	1) 妊娠の異常の看護（流産・早産・常位胎盤早期剥離・前置胎盤・妊娠性高血圧症候群・貧血） 2) 分娩の異常の看護（胎児機能不全・帝王切開術） 3) 産褥の異常の看護（乳腺症・乳腺炎・子宮復古不全） 4) 新生児の異常の看護（低出生体重児・先天異常、障害をもつ新生児・死産） 5) 精神障害合併妊婦と家族の看護	2 2 2 1	講義	
4. 不妊治療の看護	1) 不妊治療の看護の実際	1		
担当：				
5. 正常分娩・産褥期の看護過程の展開	1) 母性看護における看護過程 (1)ウェルネス思考とは 2) 正常褥婦の看護過程の展開 (1)情報収集・アセスメント	1 4 2	講義 課題提出 講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
6. 新生児の看護過程の展開	(2)問題リストと看護目標 (3)看護計画	3		
	3) 新生児の看護過程の展開 (1)情報収集・アセスメント (2)問題リストと看護目標 (3)看護計画	2		
教科書	専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院)			
副読本	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程			
評価方法	筆記試験： (30点) (30点) 看護過程の課題レポート： (40点)			
進 度	2年次前期 (4月～8月)			

科目名：「精神看護学概論」 1単位 (30時間)

講師名：「 」看護師として臨床経験有

目的：ライフサイクルにおける、心の発達と健康及び、精神保健活動と看護の役割を理解し、精神を病む人に対する看護について学ぶ。

目標：1. すべてのライフサイクルにおける心の発達と健康の概念を学び、心の健康と精神看護の役割を理解する。

2. 精神保健活動の意義と特徴を理解する。

3. 精神を病む人との人間関係を円滑にするための知識と、その活用方法を理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 精神看護学とは	1) 精神障害と精神保健 2) 精神の保健とは 3) 地域精神保健における第1次予防、第2次予防、第3次予防	4	事前の課題学習 小テスト 講義 ディスカッション 「ストレス・チェック」表	・既に学んだ学習内容を想起し、精神看護学の知識を深める学習にする。 ・色々なテーマで他者と話し合い、自分の考えを明確にする。 ・定期的にスケールを用いて自分のストレス度を知り、精神(心)の健康を維持するための方法を獲得し、ストレス対処能力を身につける。
2. 精神(心)のとりえ方	1) 脳の構造と認知機能 2) 精神(心)の構造とはたらき (1)精神力動理論 (2)自我の防衛機制	4	事前の課題学習 講義	・定期的なスケールを用いて自分のストレス度を知り、精神(心)の健康を維持するための方法を獲得し、ストレス対処能力を身につける。 ・グループで情報を収集し、その内容について討議し、発表する。
3. 精神(心)の発達理論	1) エリクソンの漸成的発達理論 2) ボウルビィの愛着理論 3) 乳幼児期の発達理論 4) ピアジェの認知発達理論	2	事前の課題学習 グループ学習	・定期的なスケールを用いて自分のストレス度を知り、精神(心)の健康を維持するための方法を獲得し、ストレス対処能力を身につける。 ・グループで情報を収集し、その内容について討議し、発表する。
4. 現代社会と精神(心)の健康	1) 「学校」「職場」「地域」における生活の場と精神(心)の健康問題 2) 看護の役割	10	事前の課題学習 グループ学習 学習発表会	・定期的なスケールを用いて自分のストレス度を知り、精神(心)の健康を維持するための方法を獲得し、ストレス対処能力を身につける。 ・グループで情報を収集し、その内容について討議し、発表する。
5. 精神(心)の危機状況と精神保健	1) 危機とは(危機理論) 2) ストレスとコーピング	2	事前の課題学習 講義	・定期的なスケールを用いて自分のストレス度を知り、精神(心)の健康を維持するための方法を獲得し、ストレス対処能力を身につける。 ・グループで情報を収集し、その内容について討議し、発表する。

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
6. 精神保健医療福祉の歴史と現在	1) 精神医療の歴史 2) 精神障害をもつ人を守る法と制度 3) 精神保健福祉法における医療形態と患者の処遇 4) 地域精神保健福祉活動を担う行政組織 5) 南筑後保健福祉環境事務所の事業概要（精神保健系の取り組み） 6) DVD視聴「パッチ・アダムス」	4 4	事前の課題学習 グループ学習 学習発表会 レポート提出	また発表会を通じて、他の学習内容についても学びを深める。
教科書	精神看護学① 精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）			
副読本	国民衛生の動向			
評価方法	課題学習：グループ学習・レポート提出（ 点）＊自己評価・ピア評価 筆記試験（ 点）			
進 度	1年次前期・後期（6月～10月）			

科目名：「精神看護学方法論Ⅰ」 1単位 (30時間)

講師名：「 」病院医師 「 」専任教員(看護師として臨床経験有)

目的：ライフサイクルにおける、心の発達と健康及び、精神保健活動と看護の役割を理解し、精神を病む人に対する看護について学ぶ。

- 目標：1. 精神障害について基本的な知識を学ぶ。
 2. 主な精神疾患と症状について理解する。
 3. 精神疾患が日常生活に及ぼす影響について理解する。
 4. 精神科における治療・検査とその特殊性について理解する。
 5. 事例を用いた看護過程を展開することで、対象を一人の人間として捉え、援助の方法を考えることができる。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査	1) 精神(心)の働きと精神症状 ・意識障害 ・知覚の障害 ・思考の障害 ・感情の障害 ・意欲・行動の障害 ・自我意識の障害 ・記憶の障害 ・見当識障害 ・睡眠の障害 ・知能 ・神経心理学と高次脳機能障害 ・性格、人格	2	講義	
	2) パーソナリティ精神状態 ・幻覚妄想状態 ・精神運動興奮状態 ・躁状態 ・抑うつ状態 ・無為・自閉状態	2		
	3) 精神科的診察 ・診察、各種検査、心理検査	1		
2. おもな精神疾患・障害と治療法	1) 精神疾患・障害の診断基準と分類	1	講義	
	2) 主な精神疾患・障害 ・神経発達症群、神経発達障害群 ・統合失調症スペクトラム障害 および他の精神病性症候群 ・双極性障害および関連障害群 ・抑うつ障害群	7		

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不安症群、不安障害群 ・ 強迫症および関連症群、強迫性障害および関連障害群 ・ 心的外傷およびストレス因関連障害群 ・ 解離症群、解離性障害群 ・ 身体症状および関連症群 ・ 食行動障害および摂食障害群 ・ 睡眠一覚醒障害群 ・ 物質関連障害および嗜癖性障害群 ・ 神経認知障害群 ・ パーソナリティ障害群 ・ てんかん <p>3) 主な治療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬物療法 ・ 電気けいれん療法 ・ リハビリテーション療法 ・ 精神療法 	1		
担当： 1. 看護過程の展開と実際	<p>(統合失調症患者の看護過程)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例紹介 2) アセスメントの視点 3) 情報関連図 4) 問題点の抽出 5) 看護計画の立案 	2 6 2 2 4	講義 事例学習 課題提出	
教科書	精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 (メヂカルフレンド社)			
副読本				
評価方法	筆記試験・課題レポート・出欠席状況 (50点) (50点)			
進 度	1年次後期 (12月～3月)			

科目名：「精神看護学方法論Ⅱ」 1単位 (30時間)

講師名：「 」 「 」 病院看護師

目的：ライフサイクルにおける、心の発達と健康及び、精神保健活動と看護の役割を理解し、精神を病む人に対する看護について学ぶ。

目標：1. 精神科看護における対象の理解および、看護の特徴・看護方法について理解する。
2. 精神を病む人の状態に応じた看護を理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 精神障害をもつ人との患者－看護師関係の構築	1) 精神障害をもつ人とのかかわりかた 2) 精神障害をもつ人とのコミュニケーション 3) 精神障害をもつ人との関係の振り返り	6	講義	
2. 精神障害をもつ人の入院治療の看護	1) 精神科病棟という治療的環境と患者の生活	2	講義	
3. 精神障害をもつ人への地域における生活支援	1) 地域精神保健福祉と社会参加 2) 精神障害をもつ人の地域生活支援 3) 精神障害をもつ人を介護する家族等への支援	6	講義	
4. わが国の精神看護の発展的展開	1) リエゾン精神看護 2) 司法精神医学と看護 3) 災害時の精神保健	2	講義	
担当：				
1. 精神障害をもつ人への看護援助の展開	1) 介護援助の基本構造 2) 精神障害をもつ人のセルフケアの援助 3) 症状マネジメント	4	講義	
2. 精神障害をもつ人の入院治療の看護	1) 統合失調症 2) うつ病 3) 双極性障害 4) 認知症 5) 妄想性障害	8	講義	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
3. 身体疾患を合併している患者への看護	6) アルコール依存症 7) 強迫性障害 8) 神経性やせ型摂食制限型 9) 注意欠如・多動性障害 10) 自閉スペクトラム障害 1) 糖尿病 2) がん 3) 肺炎 4) 骨折	2	講義	
教科書	精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 (メヂカルフレンド社)			
副読本				
評価方法	筆記試験 (50点) (50点)			
進 度	2年次前期 (4月～8月)			

科目名：「在宅看護概論」 1単位 (30時間)

講師名：「 」専任教員(看護師として臨床経験有)

目的：地域で生活している人とその家族を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を修得する。

- 目標：1. 在宅看護の意義と役割について理解する。
 2. 在宅の対象となる人とその家族を理解する。
 3. 在宅ケアサービスとシステムについて理解する。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 在宅看護の概念 1) 自己の在宅看護への考察 2) 歴史と動向 3) 在宅看護とは	(1) 在宅看護の歴史と動向 ①在宅看護の変遷 ②在宅ケアニーズの動向 (1) 在宅看護の目的 ①在宅看護の特徴 ②生活の場と在宅看護 ③在宅看護の意義	3 1 2	発表 講義 講義 自己学習	新聞やインターネットで注目記事を選択する。
2. 在宅療養者と家族の支援 1) 対象の理解 2) 成立の条件	(1) 在宅看護の対象者の理解 ①療養者の理解 ②家族の理解 (1) 在宅療養を成立させる条件 ①療養者や家族側の条件 ②サービス提供者側の条件	10	講義 自己学習 DVD視聴	
3. 在宅療養を支える看護 1) 訪問看護	(1) 在宅療養を支える訪問介護 ①制度による訪問介護活動 ②訪問介護のシステム	6	講義	
4. 在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携 1) 連携・マネジメント 2) 継続看護	(1) 在宅ケアの連携とマネジメント ①地域包括システムと在宅ケア ②在宅ケアシステムとチーム ③ケアマネジメントと看護 (1) 退院計画・継続看護	6 1	講義 自己学習 発表 講義	
5. 在宅ケアを支える制度と社会資源 1) 制度と福祉	(1) 在宅療養者を支える制度と社会資源 ①介護保険制度 ②社会資源	1	講義 自己学習	
教科書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版)			
副読本				
評価方法	試験、課題レポート、課題学習			
進 度	1年次前期(8月～12月)			

科目名：「在宅看護方法論Ⅰ」 1単位 (30時間)

講師名：「 」病院医師 「 」訪問看護ステーション看護師
「 」専任教員(看護師として臨床経験有)

目的：地域で生活している人とその家族を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を修得する。

- 目標：1. 訪問看護における手順、マナーが理解できる。
2. 在宅におけるリスクマネジメントの必要性とその方法が理解できる。
3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法が理解できる。
4. 在宅療養での生活環境について理解し、工夫できることを考えることができる。
5. 在宅療養における日常生活の援助方法が理解できる。
6. ターミナル期における多職種チームケアの大切さを理解できる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 在宅療養における診療・ターミナル期の援助	1) 訪問診療とは 2) 緩和ケア外来について 3) 命について	4	講義	
担当： 2. 訪問看護技術、在宅療養生活を支える基本的な技術	1) 家庭訪問・訪問看護 2) コミュニケーション 3) フィジカルアセスメント 4) 環境整備 5) 生活リハビリテーション 6) 感染予防 7) ターミナルケア	4	講義	在宅に顕在・潜在している危険を考えることができる。
3. リスクマネジメント	1) 医療上の安全管理 2) 療養環境の安全管理 3) 災害時の安全管理 4) 感染防止 5) 事故防止	4	講義 演習	介護用具の展示施設を見学し、在宅における生活上のメリットの考察をレポートにまとめる。
4. 在宅ケアを支える制度と社会資源とその事例	1) 障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 2) 在宅難病療養者を支える制度と社会資源 3) 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	8	講義	
担当： 5. 在宅における援助技術	1) 生活援助技術 (1)地域で療養する人を支える住宅環境・日常生活用具と支援体制 (2)清潔への援助	4 6	施設見学 演習	
教科書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア(メディカ出版)			
副読本	出席状況： (10点) テスト： (60点) パフォーマンス： (30点)			
評価方法	1年次後期(11月～1月)			
進 度				

科目名：「在宅看護方法論Ⅱ」1単位（30時間）

講師名：「 」 「 」 訪問看護ステーション看護師

目的：地域で生活している人とその家族を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を修得する。

- 目標：1. 在宅で行われる医療処置の方法が理解できる。
2. 終末期患者と家族への看取りを含む支援の方法を学ぶ。
3. 疾病や障害を持ち、在宅で療養している人、支援を必要としている家族の訪問看護を実践するための看護展開の方法を理解する。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当： 1. 医療技術	1) 在宅医療技術 (1)膀胱留置カテーテルの管理 ①適応条件と療養者及び家族への看護 ②合併症とその対処方法 ③プライバシーの保護と生活の工夫 (2)経管栄養法（胃瘻含む） ①合併症とその対策方法 ②生活の工夫 (3)在宅酸素療法（HOT）をしている人の呼吸管理 ①在宅酸素療法（HOT）とは ②適応基準と療養者及び家族への看護 (4)腹膜透析（CAPD）をしている人と家族への援助 (5)在宅人工呼吸療法（ALSの事例を通して） ①適応と療養者及び家族への看護 ②排たんに関する技術 (6)在宅中心静脈栄養法（HPN）の管理 ①適応条件と療養者及び家族への看護 (7)褥瘡の予防とケア ①褥瘡の予防 ②褥瘡発生時の対応	16	講義 演習	今まで学習した技術を応用する

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
2. 終末期	1) 終末期の看護 (事例設定) (1)在宅における終末期看護の特徴 ①終末期看護の定義 ②在宅終末期看護の条件 (2)終末期看護の実際 ①在宅移行時の観察ポイント ②終末期前期の観察のポイント ③終末期中期の観察ポイント ④終末期後期の観察ポイント (3)在宅での看取りの技術 ①病状変化時の対応 ②家族への死の準備教育	4		在宅と病院で死を迎える対象者への看護の違いを考えることが出来る
担当： 1. 看護過程	1) 在宅看護の方法 (事例：ALS) (1)在宅看護過程展開のポイント ①対象者の生活と価値観の多様性の尊重 ②環境や家庭への視点 ③時間的な広がりへの着目 (2)看護過程 ①特徴 ②情報収集とアセスメント ③目標・計画 ④実施と評価	5 5	講義 演習	在宅で看護過程の特徴を理解する
教科書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア(メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術(メディカ出版)			
副読本				
評価方法	筆記試験： (70点) 課題レポート、課題学習： (30点)			
進 度	2年次前期 (4月～8月)			

科目名：「医療安全・臨床看護の実践」 1単位 (30時間)

講師名：「 」 「 」 専任教員 (看護師として臨床経験有)

- 目的：1. 看護業務と医療事故の構造を理解した上で、事故防止のための知識・技術を学ぶ。
2. 既習の知識・技術を統合し、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高める。

- 目標：1. 医療システムの中で危険因子を知り、診療補助技術における事故防止のための知識・技術を習得できる。
2. ハイリスク環境下で安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる。
3. 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任と倫理観を身に付ける。
4. 患者を受け持ち、優先順位を考えた行動計画が立案できる。
5. 計画に沿った看護実践中に起こる割り込み状況に対し、自己の対処能力を認識したうえで対処方法が判断できる。
6. 患者への看護実践を振り返り、状況への対処を含め、どうすればよかったか、患者、看護業務、自己の実践能力等の視点から考察できる。

教育内容

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
担当：				
1. 医療安全を学ぶ 大切さ	1. 人は誰でも間違える 2. 医療事故増加の背景 3. 人は何故間違いを起こすのか	2	講義	
2. 事故防止の考え方	1. 医療事故と過失 2. 事故の傾向 3. ヒューマンエラーと医療事故	2	講義 (学外研修)	
3. 看護事故防止の 考え方	1. 医療事故と法律 2. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	3	講義 講演	
4. インシデントの 分析活用	1. 根本原因分析 (R C A) 2. 予防対策の立案 3. フィードバック	3	講義 演習	実習中の ヒヤリハット
5. 診療の補助業務 に伴う事故防止	1. 注射業務と事故防止 2. 輸血業務と事故防止 3. 内服与薬業務と事故防止 4. 経管栄養業務と事故防止 5. チューブ管理と事故防止	4	講義 演習	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
6. 療養上の世話における事故防止 担当： 1. 臨床看護の実践	1. 転倒・転落事故防止 2. 誤嚥事故防止 3. 入浴中の事故防止 1. 演習のねらい・目的・進め方 2. 事例の紹介 3. 評価方法 4. 患者に実施すべきケア計画の立案 5. 複数患者間のケアの優先順位を踏まえた計画立案 6. 患者の状況に合った看護技術の実践 7. 状況への対処 ①予期しない患者の反応 ②突発的な事態 ③時間の切迫 8. 看護技術の統合	1 10 5	OR グループワーク グループでの技術実践 技術の発表会	
教科書	ナーシング・グラフィカ 看護の実践と統合② 医療安全 (メディカ出版) 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II (医学書院)			
副読本	別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)			
評価方法	: 筆記試験 (30点) 課題レポート (20点) : 課題レポート提出 (10点) シミュレーション発表会 (40点)			
進 度	2年次前期から後期 (4月～12月)			
備 考	統合分野の「医療安全・臨床看護の実践」を履修するためには2年次の臨地実習を履修しなければならない			

科目名：「災害看護」 1単位 (30時間)

講師名：「 」 「 」 専任教員（看護師として臨床経験有）

目的：災害看護の基礎的な知識および災害発生時の情報伝達や支援の仕組みなどを理解し、災害時に必要な看護技術を学ぶことで、災害看護に関する全体像を理解する。

- 目標：1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。
 2. 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備えがわかる。
 3. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解する。
 4. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を体験的に習得する。

教育内容

单元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
災害および災害看護に関する基礎的知識	1. 災害の歴史 2. 災害・災害看護の定義 3. 災害の種類と災害サイクル	2	講義	1. 災害の歴史を知り、過去どのような災害が起きていたのかを知る。また、その災害の種類や分類及び災害サイクルを学ぶことで、災害に対する基礎知識を身に付ける。 2. 災害に関する法律や制度を学び、災害時の国や県の体制や対応を学ぶ。 3. 災害の各サイクルに必要な看護を学び、各期をどのようにアセスメントすればよいかを考えることができる。 4. 災害で心の問題を抱えた対象に、どのような看護を提供したらよいかを学ぶ。また、避難所や仮設住宅での生活に対する看護を学ぶことができる。
災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備え	1. 災害に関する法律・制度 2. 災害情報と伝達やしきみ 3. 災害関係各機関の支援体制 1) 国の対応 2) 都道府県の対応 3) 災害医療体制 4. 個人の備え、災害ボランティア活動	4	講義 DVD視聴	
災害が人々に生命や生活に及ぼす影響	1. 災害時の被災者および援助者の心理	3	講義	
災害時に看護が果たす役割 災害各期における看護支援活動	1. 災害看護の基本姿勢 2. 災害サイクル各期における看護活動 3. 災害時に必要な技術 1) 救急講習 2) トリアージ（演習含む） 3) 心肺蘇生法 4) 応急処置（演習含む） 5) 搬送（演習含む） 6) 避難所の設置 4. 災害時に必要な技術を活用した演習（八女・筑後地区防災訓練へ参加）	6 4 4	講義 DVD視聴 GW 演習 八女消防署の救急講習を受講 八女・筑後地区防災訓練参加	

単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
病院における 災害看護	1. 病院における災害への備え 2. 災害時の初動体制 3. 災害訓練	3	講義 DVD視聴	
教科書	災害看護（南江堂）			
副読本				
評価方法	筆記試験、パフォーマンス評価			
進 度	2年次前期・後期（4月～12月）			